私のことば

実業団、クラブを分けて試合を

富山県協会会長
高田義一



オリンピック東京大会を契機として国民の間にスポーツの普及、振興を望む声が強くなり、それが国民の体力づくり運動にまで発展してきたことはまこと喜ばしいかぎりです。スポーツの振興を目的、論的に考えれば一つはスポーツの大衆化の面であり、一つはスポーツの高度化の面であろうと思う。大衆化の面は市町村教育委員なり体育指導委員が、未組織の人たちを対象として力を入れるものであるし、高度化の面は競技団体やクラブなりが体協を中心として行なっている面である。スポーツの大衆化の一方法として、スポーツ教室やスポーツ少年団の活動が活発に行なわれて底辺づくりに精進されている。

その実施種目やコースを見ると、球技がかなり多く採用されているようだが、バレーボール、卓球、バスケットボールなど早くから親しまれていのがほとんどである。ハンドボールをとり入れているところはごくまれである。端的にいって、地方によっては皆無に等しい現状であることはまことに情けないしだいです。底辺づくりなくしてはよいチームも選手も指導者も生れない。こうした面から見て、ハンドボールの大衆化はできないものかと真剣に考えてみる必要が痛感される。

ハンドボールの高度化はめざましいものがあるが、なお一考を要する問題があると思う。一つの提案を試みるならば、国体や地方大会における競技運営において、ノンプロ（実業団チーム）とアマチーム（同好者のクラブ）を混合して組み合わせ、試合を行なうことは納得がいかない。区別して試合させることにしてはどうか。なんとなれば、実業団チームは同じ職場において恵まれた施設と時間、チームワークにより鍛えられている。同好者のクラブは職場も異なり、施設はもちろん、練習時間にも恵まれず、チームワークもとりにくい悩みを持っている。こうした初めからハンディキャップのあるものを混合して組み合わせ、試合をさせることは不合理であると考える。したがって地方のクラブでは、戦う意思が減退し、盛り上がる力も出てこないように思う。しかし、このクラブの人たちこそハンドボールの大衆化を指導する原動力であると信じる。この人たちが長くハンドボールに親しみ、ハンドボールのプレーヤーを育て、この競技の底辺づくりの活躍に期待している。この観からこの人たちを育成するためにも、クラブチームのみの組み合わせによる試合を行なって、勝者となり得る楽しみを持たせたい。

ハンドボール「第33号目次」

昭和41年6月号

〔表紙写真〕 5月15日の関東学生秋季リーグ戦で、試合を前に 7MT を練習する日体大女子チームの選手。

日本協会全国理事長会議

一般チームの増加を図れ

高専、中学チームの全国調査

4月1・2日箱根強羅で

日本ハンドボール協会は4月1、2日の両日、神奈川、箱根強羅の静雲荘で全国理事長会議を開いた。この会議で(1)一般チームを全国で120チーム以上ふやす(2)高専チーム、中学校チームの調査(3)ハンドボール少年団の交歓―など重要事項を決定、各都道府県協会に協力かたを要請した。注目すべきことは普及対策で、このうち「学校体育の指導要領」にハンドボールを加えることを文部省に要望書を提出したことである。また各県理事長から多くの要望事項が出された。

休育指導要領 文部省に要望書提出

理事長会議議事録

▽日時　4月1日(金)~2日(土)

▽場所　箱根強羅・静雲荘

▽参加者　馬場副会長、高嶋理事長、斎藤(青森)、佐藤(岩手)、保坂(秋田)、福島(宮城)、熊田(福島)、遠藤(埼玉)、安藤(東京)、渡辺(新潟)、中島(長野)、片瀬(静岡)、栗脇(愛知)、山田計(大阪)、辻(岡山)、藤田信(山口)、小袋(福岡)、青井(長崎)、疋田(大分)、平仲(沖縄)、村山(高体連)宮崎、若崎、青木、岡村(日本協会)以上25人

▽会議の主題

1、本年度の重点施策である「中学校に対する普及対策」について高嶋理事長から説明。

2、ハンドボール実施中学校数の調査を行なう。

3、一般チームを全国で120チーム以上増加させる。したがって各県は少なくとも3チーム以上の増加、高校は昭和40年度各県登録数の1割増を努力目標にする。

▽質疑応答

遠藤　大会補助金を本部から出してほしい。

馬場　本年度予算では計上できないことだが、来年度予算のさいは各県理事長は各県会長とじゅうぶん相談されて提案なさるとよい。

栗脇　中学校チーム数は、愛知県ではかつて40チーム以上あったが、中学校指導要領からハンドボールがはずされたため半数に減じた。

高嶋　東京では日体大、日大、順天堂大、学芸大、国士館大、東女体大など体育指導者養成のところにはハンドボールを普及させているが、まだ全国的とはいえないからしだいに侵透させていきたい。

小袋　学芸大系の大会はやらないのか。

高嶋　予算は計上していない。普及部案としては学芸大(全国6~7実施校)で大学持ち寄りでやり、しだいに拡大していきたい方針である。

栗脇　愛知では<別紙1>3ー(イ)について、2~3月カリキュラムを作って実施し、本部に連絡したがどうしたらよいか。

若崎　神奈川県では、横浜市内中学校のスポーツ関係の有力者5人と打ち合わせ、各人が6チームを責任分担してもらい、計30チームで大会を開いた。ボールは2個あて補助、簡単なゴールポスト5組作成した。材料費15、000円(塩化ビニール)+手数料約5、000円=約20、000円

青井　長崎県では千田課長がいる。佐世保市では夏の課外科目に水泳とハンドボールを入れ、ハンドボールは中学校男7、女7チームあり、指導者講習会や中学大会も開いている。公認審判員は千田氏のみで不足、養成したい。40年度加盟したが約25チームになった。(注)=沖縄は現在30チーム

馬場　県内普及、強化のためによいチームの合宿誘致がある。

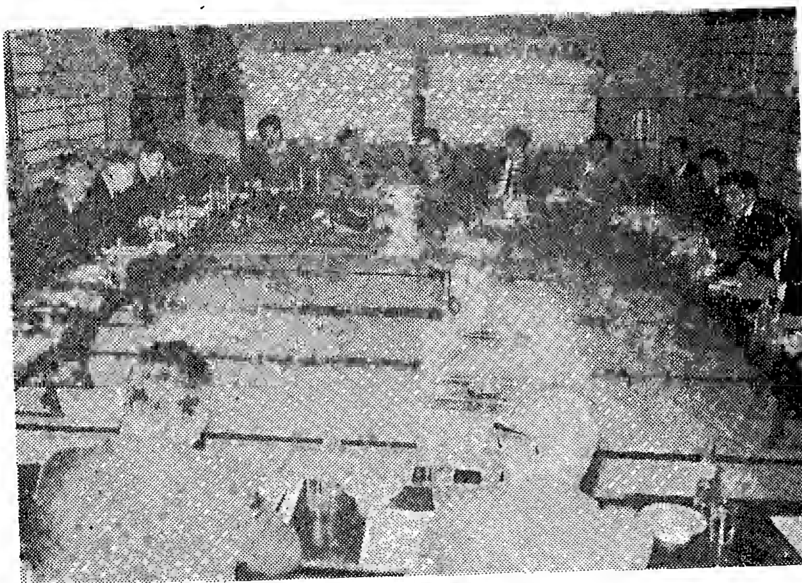
山田　一般クラブチームのみの大会はできぬか。すべて実業団に食われ、底辺拡充の阻害になっている。

高嶋　全国大会は現状で手いっぱい。県やブロックでできないか。

山田　大阪は実業団以外のクラブチームのリーグを41年度から実施の予定。

高嶋　各県から1チーム出場の1種目別が国体に設けられそう。(注=現行30、12、10、10、10の72チームが86チームと14チーム増)。実業団から最強4チームの日本女子リーグをしたいとの要望がある。

山田　評議員会の出席者数は増加したが、もっと多数の会長の出席がほしい。



全国理事長会議（静雲荘で）

小袋　評議員会に理事長を代理委任できるようにならないか。

高嶋　ハンドボールをまだ熟知しておられない会長、副会長に出席してもらうことが、規約改正のねらいの一つである。

山田　各県会長はどのように協力しておられるか知りたい。

片瀬　各県の年度予算と収入方法をお聞きしたい。

辻　国立高専の大会を持てぬか。

高嶋　現状は持つことを考えていない。

藤田　宇部高専は部員30人ほどいて活動している。今年から高専は1年から高体連大会に出られぬ。したがって一般の大会にしか出場できない。（注＝鈴鹿、豊田、兵庫などの高専で実施している）。

藤田　山口県は中学校大会を春、夏、秋3回実施している。（男15チーム、女8チーム）

山田　近畿では大会を行なっている。6府県から予選通過の2～3の中学校チームが参加、中学校の先生のみの講習会では20～30人の出席。

安藤　東京では秋の大会に男25女12が参加する。

馬場　中学校指導要領決定の事前に、中学校の先生やクラブ活動面に手をつけた方がよい。

青木　「スポーツ少年団」について、協会は40年度の普及委員会が本件を打ち出したが、41年度は一組織として議案となり決定をみている。新聞報道の内容について誤解をうけるような向きのあったのは遺憾だ。

スポーツ少年団については、41年度事業計画の一環として考え打ち出した。現在白紙の状態であり、本理事長会議で具体案を出し、実施にもっていきたい。予算は便宜上のものとして立てた。（注＝青木メモとして〈別紙2〉について解説）

高嶋　スポーツの大会をするのでなければ、文部省の干渉はない（松島課長談）。ただし全国中学校長会では旅費との関係で難色を示している（旅費全額2、000万円）。この目的は「少年の生活訓練をする」にある。

青木　「ハンドボール・スポーツ少年団交歓会」であれば、長崎では県費、市費、少年団費を支出して参加させうる。九州では40年度剣道、柔道、サッカーをやり、41年度はバスケット、バレーなどがふえた。10月「ハンドボール大会」を行なう予定であり、各学校としても支障はない。

山田　大阪では約2、000人が参加し、生徒の希望により種目別に分けて実施。生徒は個人負担、指導者には団費から補助している。

青木　「学校体育」と「自由なスポーツ団」として見解がむずかしい。YMCAや健民少年は全くフリーであるのに「スポーツ少年団」は枠づけられて自由でない。

馬場　各会長に機関誌を読んでもらいたいし、投稿してもらいたい。また個人購読数をふやしてもらいたい。常務理事の年間出欠表をつくってもらいたい。

小袋　①機関誌を投稿したくてもページ数が不明。

②機関誌は強制的割り当てでもあるから、興味をもって読んでもらうためにも、高校生用のブロック割当ページを設けたい。

③全日本選抜のチーム決定方法において福岡教員がなぜもれたか。近い大会の上位チームがよいのではないか。

④岐阜国体での審判と監督とのトラブルがあったが、運営をうまくやってほしい。

⑤大きな大会（たとえば大分国体）時に審判講習会（強制的）を開催してほしい。

⑥審判講習会の内容を充実してほしい。（たとえば2日間で実技、座学、テストなど）

⑦審判上級申請のさい、県によっては試合数が少ないので、吹く数が少なく許可されない。ペーパーテストで救えないか。

〔決定事項〕

1、ハンドボール実施中学の調査

2、一般チームを全国で120チーム以上ふやす。

3、学芸大学の大会の具体策と実施の供進。

4、高専チームの全国調査。

5、ハンドボール少年団の交歓。

6、大都市（東京、大阪、名古屋）に各区ごとにハンドボール協会をつくる。

7、機関誌〔ハンドボール〕の個人購読者の増加をはかる。

▽別紙（1）

普及対策

◇中学校の普及

「学校体育の指導要領」に加えること

1、見通し

㋑小、中学校は昭和42年6月ごろ答申の予定

㋺昭和42年度内に「指導要領」

が作成される予定
㋩「新指導要領」は昭和46年度から実施の見込み

2、現段階
㋑改定についての情報
㋺学校体育についてのハンドボールの位置付けの検討
㋩ハンドボール研究指定校を定め、理論と実際の研究調査
㋥文部省に要望書を提出した

3、各都道府県協会に依頼したい事項
㋑中学校チーム数調査（昭和33年当時のチーム数、現在のチーム数）
㋺各県体育主管課長に「地方の声として機会あるごとに文部当局にお願いしてくださるよう」依頼する
㋩各県ごとに中学校（男・女）の大会を開催する
㋥各中学校にハンドボールを指導できる教師またはOBを確保する

◇高等学校の普及
41年度中にチーム数を1割増の企画と実行（昭和40年度、10チーム以下のところでも1チーム以上を増加する）

▽別紙（2）
ハンドボール少年団交歓会について

◇趣　旨
この交歓会は全国の少年にたいしてハンドボールを普及することによって、心身ともに健全な少年を積極的な育成する機会を与えることを目的として開催するものである。ハンドボール少年団は、日常生活する地域社会を基盤として活動するもので、生活としてのスポーツを本質とするものである。

とくに、今回全国的規模でハンドボール少年活動を展開しようとするのは、ハンドボールを愛好する少年たちが各種の方法で、集団生活によりスポーツを楽しみ、友好を深め、日常生活では得られぬ生活経験の機会を得させようとするものである。

この目標は今回の交歓会の基本的な考えであって、いかなる方法で交歓会を実施する場合も共通なものとする。

◇実施要領
1、開催方法は次のことが考えられる
㋑全国的交歓会（一会場）
㋺地区交歓会（ブロック）
㋩近接都道府県単位交歓会
㋥一都道府県単位交歓会
㋭都市交歓会（各種）
㋬他種目スポーツ少年団と合同開催も考えられる。
㋣在留外人少年ハンドボール団体との交歓も考えられる。

◇実施期日
夏休み期間とする。これは
①全国一会場の場合
②各種交歓会の場合は、同一期日開催と自由期日とがある。（同一期日の場合は、テレビ活用により全国的一斉に行ない、連係を保つ方法も考えられる。）

◇参　加
①全国一会場
㋑チーム参加1～5（地域指導者以上を含む）
㋺指導者のみ（遠い所）
㋩代表参加（役1、少1）
②ブロック交歓会は原則として①に同じ
③その他の交歓会は各地の実態に即したもので、創意的に行なうことができる。

◇内　容
①少年団結成式
②共同生活または生活経験（日帰り、宿泊）
③ハンドボールの実施（心身の発達に応じた）
④交歓行事ならびにレクリエーション
⑤指導者会議（普及実行について）

◇必要協議事項
①宿泊を要する場合はキャンプ、民泊などを主体とし素朴な生活と、その風土に親しむ方法をとる。
②参加料＝宿泊費、旅費、役員旅費の援助
③携行＝服装、旗、チーム
④開催方法（主催、主管、後援、その他）
⑤準備、都道府県理事長の計画に（会議）
㋑基本方針　㋺開催方法　㋩参加　㋥行事

佐賀、徳島など新加盟

▽佐賀県
協会所在地＝佐賀市北川副町木原　佐賀東高校内　会長＝渡部保

▽沖　縄
協会所在地＝沖縄糸満町　糸満高校気付　会長＝仲田豊順（那覇市　那覇高校気付）　理事長＝平仲孝栄（沖縄・島尻郡東風平村東風平一二〇）

▽徳島県
協会所在地＝徳島市沖の洲北東田一ノ一一九　徳島県立高校内
電話　徳島（二）四六〇三
会長＝久木武夫　理事長＝田岡忠

各県協会だより

▽長崎県
新しい理事長に松村守氏（三十九歳、東京高師出）が就任。住所は長崎市石神町二ノ一二。連絡先は長崎市文教町　長崎大学学芸学部。

▽大阪府
協会連絡先変更＝大阪市住吉区帝塚山西五丁目五五　大阪市立住吉中学校内（事務担当者　鮫島匡）
電話　大阪（六七二）三一一五

▽高知県
協会連絡先変更＝高知市追手筋七　高知追手前高校内（事務担当者　川崎秀雄）電話高知（三）六一四一一三

▽岩手県
協会所在地変更＝盛岡市内丸一ノ一　内丸合同事務所内　岩手県高体連気付（事務担当者　佐々木茂喜）

▽和歌山県
協会所在地変更＝和歌山市豊原町一ノ一　桐蔭高校内（事務担当者　山田進）電話　和歌山（二二）四七一八　（二三）一一四七

▽広島県
協会所在地変更＝広島市若草町広島駅北口前　株式会社いとうや

▽山口県
協会所在地変更＝山口市糸米県立山口高校内

▽秋田県
協会連絡先変更＝秋田県湯沢市湯沢高校内

▽福井県
協会所在地変更＝福井市板垣町二九　羽水高校内　電話　福井（二四）五一七八
理事長は新たに中村九郎右衛門氏が就任

▽群馬県
会長に保坂梅雄氏（医師）が就任。住所は富岡市富岡甲一一七三
電話　富岡　〇一一三

目ざすは「ミュンヘン（西ドイツ）」 1972年の五輪開催地決まる

日本ハンドボール界、世界ハンドボール界が目ざす1972年（昭和47年）のオリンピック大会（夏季大会）の開催地は西ドイツのミュンヘンに決まった。36年ぶりに復活したオリンピック・ハンドボールの開催地が、前回（1936年＝ベルリン）に次いでハンドボール発祥の地、西ドイツに決まったことは奇しき因縁であろう。

1972年のオリンピック大会開催地などを決める第64回国際オリンピック委員会（IOC）総会は4月24日からローマで開かれた。開催地の選出は総会第3日の26日、すでに立候補していた夏季大会4都市、冬季大会4都市について投票を行なった。その結果、夏季大会は決選投票の結果、ミュンヘン（西ドイツ）31、マドリード（スペイン）15、モントリオール（カナダ）14、白票1（数字はいずれも共同通信社のニュースによる）でミュンヘンに決まり、ドイツは1936年いらい36年ぶりに聖火を迎えることになった。冬季大会は札幌が第1回投票で過半数を占め、開催地に決まった。

ミュンヘン大会はANSA＝共同によれば、同年7月22日から8月6日まで行なわれると伝えられている。ばく然と1972年という年に焦点を当てていた日本ハンドボール界も、これではっきりと「ミュンヘン」「6年2カ月後」という大目標を得たわけである。ハンドボールはベルリン大会で、10カ国が参加して11人制で行なわれドイツが優勝。それ以外は1952年（昭和27年）のヘルシンキ大会でデモンストレーション種目として、デンマークとスウェーデンが対戦（11人制）している記録が残されているにすぎない。

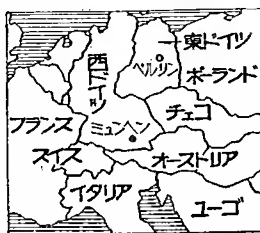
1964年（昭和39年）の東京大会ではいったん開催が決まり（開催を申し合わせたときのIOC総会会場がミュンヘンだったのは何かの縁であろうか）、日本ハンドボール界は会場を駒沢に、強化コーチに荒川清美氏（日体大出）を決めて準備にはいったものの、その後に起こった種目削減にひっかかりこの夢を果たせなかった。それだけにミュンヘン大会での実現は、文字どおり〝待ちに待った〟朗報である。

ミュンヘン大会のハンドボールは国際情勢から見て、7人制で行なわれる公算が特に大きい。現状では男子16カ国による大会となり、女子は見送られそうだ。しかし今後の動きでは、男女各8カ国に変わることも予想される。この大会に日本が世界選手権のように、無条件で出場できるとは考えられない。当然、予選が行なわれるだろう。地区別（日本はアジア）になるか、エントリー数しだいで大会前に開催地周辺で予選を行なうバスケットボールのような（編集部注・東京大会のときは横浜）方法が採られるかは現時点では予測しがたい。

ともあれあと6年。日本ハンドボール界あげて「ミュンヘンを目ざせ」を合い言葉に大同団結し、成果をあげるよう期待したい。

西独で三番目の都市 ミュンヘン

1972年のオリンピック会場に決まったミュンヘンは西独第三の大都市で人口118万。西ドイツ南部バイエルン州の首都でいかにもドイツ的な町。その横顔をかたるものはビール、カトリック、美術館、保守主義……といろいろあろうが、一口にいって西ドイツの南国土佐と思えばよい。南にアルプスをのぞむバイエルン高原の中央にあって標高520メートル。酒どころの例にもれず、人情豊かでどろくさいが、陽気でくったくのない点では西ドイツでいちばんだろう。



ミュンヘンの日程

【ローマ27日発ANSA＝共同】26日のIOC総会で1972年夏季オリンピック大会開催地に選ばれたミュンヘンは、同年7月22日から8月6日までの期間で大会を開く計画である。

ハンドボール認められず メキシコ五輪

【ローマ28日発＝ロイター】国際オリンピック委員会（IOC）は4月28日の総会で、1968年のメキシコ・オリンピックに柔道を復活させないことを決定した。また同会議はハンドボール、アーチェリーも種目として加えないことに決めた。この種の決定には三分の二以上の賛成が必要であったが、この提案は否決された。

ブランデージIOC会長は「この時機に、メキシコ市にこれらの種目を加えることは妥当ではない」と語った。

（朝日新聞から）



もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

1966年の展望(下)

田村紡追う大洋、大崎、愛知紡
三菱鉛筆・日体大の食い込み期待

杉山茂

実業団はことしも"4強"の対決に話題が絞られそうだ。新陣容をのぞく前に、昨年の成績をふり返ってみよう。

女子

昨年は全国4大タイトルを田村紡2(国体、全日本選抜)大洋デパート2(全日本総合、全日本実業団)と分け合ったが、この結果を意外とする人は多い。これはシーズン前、最強といわれた大崎電気(埼玉)が無冠に終わったことと、愛知紡(愛知)の巻き返しが今一歩で成らなかったためだ。昨年における4強の公式戦における対戦は総計25試合あり、その成績は別表のとおりである。これを見ると、田村紡(三重)の得点力(1試合平均9)が抜群なのがよくわかる。実力伯仲の強者から9点も取ることは並みたいていのことでない。田村紡は昨秋の三重県選手権3試合で得点104、失点1という大記録をつくっているが、男まさりの速攻という定評をこれでじゅうぶん裏付けている。

大洋デパート(熊本)の平均した強味は、2タイトルの獲得で評価されている。

昭和40年度女子実業団4強対戦成績表(公式戦)

○内は引き分け

	田村紡	大洋	大崎電	愛知紡	試	勝	負	分	得	失
田村紡	×	2—2	1—2①	6—0①	15	9	4	2	135	87
大洋	2—2	×	2—1	4—0	11	8	3	0	91	61
大崎電	2—1①	1—2	×	1—1①	10	4	4	2	67	56
愛知紡	0—6①	0—4	1—1①	×	14	1	11	2	66	155

田村紡対愛知紡は東海3大会の成績を含む

大崎電気は昨秋の世界選手権に遠征後、すっかり調子を狂わしてしまったようで、帰国後の成績は4勝3敗1引き分けである。愛知紡の不成績は田村紡に1回も勝てないのが痛い。しかも東海選手権で引き分けた以外は完敗のケースが多く、対田村紡の成績は得点33、失点85である。

有望新人散らばる

さて新シーズンの陣容だが、各チームとも昨年の高校界のトップクラスを重点補強し、有望なプレーヤーが期せずして散らばっている。昨年以上の激突が早くも期待されているのは、こうした背景があるのと、各チーム間の対抗意識、作戦研究が高まっているからにほかならない。

田村紡は川口が退陣したが、田村(半田高)長谷川(加納高)吉開(甲子園学院高)ら5人を加え、最も変動が少ない。種村、小林、水谷、渡辺好、内藤、清水らはますますそのワザにみがきがかかり、それぞれの持ち味が生かされているのもこのチームの強味だ。ブロックプレーを中心に新しいフォーメーションの開拓が続けられているが、ポストプレーにやや行き詰まりの感がある。それだけにおとなしいといわれていた試合運びに田村が加わったのもプラス。GK渡辺美はことしあたり"ナンバー・ワン"の定評を不動のものとしよう。

大洋は九州地区から5人の新人を迎え"超高校級"と折り紙をつけられていた垂水(菊池農高)は有力なポイントゲッター。すぐに起用するのではないか。高山、新保は世界選手権出場後すっかり自信をつけ、プレーに幅が出てきた。

枝尾、中村の進境も攻撃力を多彩にしているし、井監督のねらう『スケールの大きい速攻チーム』へ一歩も二歩も前進しそうである。これまでは西村の個人技を切り札にして、どちらかといえば攻めのおそいチームカラーだっただけに、この大洋の変ぼうは注目されるものがあろう。GKは山口のほか有働(菊池農高)が加わり、万全の体制である。

昨年、期待を裏切りどおしの大崎電気は第一線からの退陣はなく、宇井、早川、鈴木、笠原、永井、黒川、加藤を中心に「ことしこそは……」との意気はすばらしい。ディフェンスのうまさは定評があるだけに、攻撃力が昨年後半のスランプから立ち直っているかがカギとみられる。新人は静岡城北高の優勝コンビ小林、堀と同GK山田。それに山崎(足利女高)栗林(柏崎常盤高)の計6人だが、主力はやはり宇井、早川、鈴木ということになるだろう。GKは川崎に大いに期待したい。

愛知紡はがらりとメンバーが変わった。第2期黄金時代を目標に陣容を一新することは無意味ではないが、攻守のカナメであるGK篠崎とFP古谷を失ったのは、他の3チームがベテランを軸に試合の駆け引きに妙をみせているときだけに微妙な影響を及ぼしそうである。しかも、最も成長が期待されていた長身の左腕伊藤がプレーを断念してしまったため、ますます得点力に不安が出てきた。新主将の小林、関口、高橋が再建の中心となろうが、五十嵐(水海道二高)黒木、前田、GK尾崎(いずれも新居浜西高)ら新人の力も今季の愛知紡を左右しそうである。

充実示すか学生界

4強の一角をくずそうとねらっているのは、三菱鉛筆(山形)と東京重機(神奈川)の両チームといっていい。2年目を迎えた三菱鉛筆は三井田、江川、鈴木の主力のほかに落合(秋田和洋女高)宮崎(小高農高)など5人の新人が加わる。昨年の経験を生かして戦うようだと、池田監督の好指導が

シーズン後半には、実を結びそうである。

東京重機も昨年までは持てる力をじゅうぶんに発揮できぬ〝弱さ〟が見られたが、エース斎藤を中心に西山口、山崎、新人山口(笠間高)山本(秋田和洋女高)らの攻撃力は、まとまりがあるだけに試合なれしてきた。ことしは波乱を巻き起こすのではないか。

ダークホースとして見のがせないのは日体大(東京)である。北村、田井、北口、GK明神ら主力が変わらず、打倒実業団に意欲じゅうぶんなだけにおもしろい。女子学生界は昨年全日本学生選手権が発足し各校を刺激したため、全般のレベルが大いに引き上げられている。東京女体大、日女体短大(東京)、中京大、中京女大(ともに愛知)など一日も早く実業団と対抗できる力をつけてほしい。また各校が共通の目標としているのは、日体大の連勝をストップさせることだ。進境を伝えられる東京女体大、中京女大がどこまで日体大に迫るか話題の一つである。

国体4位の揖斐川電工(岐阜)はエース赤塚姉らを残しながら対外試合の自粛が表明されており、全国大会での活躍は望めそうにない。一年間活動を休止していたレナウン(東京)もカムバックの体制を整えてはいるが、若手中心の編成で一挙にブランクを取り戻すのはむりのようだ。新結成を伝えられる宗形製作所(大阪)ブラザー工業(愛知)は未知数。

クラブ、善戦がやっと?

クラブ界では昨秋の国体(岐阜)で栃木女ク、寝屋川ク(大阪)が実業団を破って気を吐いたが、全般的にレベルが下がる一方。ことしもこの2チームのほかは新進の室蘭ク(北海道)大垣南嶺会(岐阜)あたりが期待できる程度。あとは全宮城、全茨城、岡山ク、愛媛クといった県単位の選抜チームがどこまで進出するかに楽しみを残すだけだ。異色は、国体を待つ大分府内ライオンズで、練習量じゅうぶんなので軽視できない。

いずれにせよ、ことしも女子の最上位戦線は実業団によって占められそうで、タイトルの行くことは大会ごとに〝4強〟がどのようなコンディションで臨むかにかかる。一段と地力をつけた田村紡を大洋、大崎、愛知紡の順で追い、これに三菱、東京重機、日体大が続くとみるのが順当のようだ。大型化しつつある高校上位チームが、この一角に食い込んでくるようだと、女子界の明日は大いに希望が持てるのだが…。

連勝目ざす桜台

高校

男子は桜台(愛知)の2年連続ダブル・クラウンが成るかが焦点。昨年の桜台は栄光に包まれる同校の球史の中でも、最強といわれ文字どおり〝超高校級〟だった。GK杉山を除いて主力は全部卒業してしまい。新人戦などでは攻撃力に甘さが目立った。しかしスケールの大きい新人がそろっており、夏までにどこまで強化されるか稲石監督の手腕がいつもながら注目される。

前評判が高いのは盛岡一(岩手)麻生(群馬)明星(東京)名城大付属(愛知)佐野工(大阪)下関中央工(山口)新居浜工(愛媛)香椎(福岡)熊本市商(熊本)などで、特に昨年初出場で準優勝を飾った名城大付属はことしさらに質量とも充実している。昨年のメンバーはほとんど抜けたが、中学時代からの経験者を中心に力と技を備えた好チームだ。〝自信〟におぼれなければ、全国優勝の可能性はじゅうぶんあるとみたい。

このほか国体開催を待つ大分、福井、埼玉勢も侮れない、沖縄がどこまで力を伸ばしているかも楽しみだ。新進校では室蘭商(北海道)中大付属(東京)、西野田工(大阪)あたりの実力が高そう。

前評判高い九州勢

女子は昨年は全国高校選手権で静岡城北、国体が菊池農(熊本)と王座を分け合ったが、ことしも両校を中心に優勝争いが演じられそうだ。昨年の静岡城北は、〝根性・気力〟を再認識させられるような試合ぶりでコートサイドの話題をさらったが、ことしは技術的にもレベルの高い選手がそろい、しかも大型である。望月監督が4月の教員異動で同校を去ったが、それだけに大いに注目していい。寝屋川高(大阪)の持つ全国高校優勝4回の記録とタイにすることができるかがどうか。

菊池農も相変わらず強い。昨年12月の全日本選抜選手権での善戦で得た自信は大きなものがあろう。宿題の全国高校初優勝へのすさまじい闘志は、再び静岡城北と激闘を展開しそうである。両校を追うのは山陽女(広島)徳山(山口)新居浜西(愛媛)大分東、熊本市立、明善(福岡)らとみられ、いずれも西日本勢である。ことに九州勢の実力は高く買われ、全国高校選手権、国体とも九州に優勝旗が渡りそうだとさえいわれている。

東日本勢は再優勝をねらう栃木女、水海道二(茨城)、それに涌谷(宮城)の名門3校と秋田和洋女が目立っている程度で、伝統の愛知は各校ともスケールが小さい。近畿勢は大谷(大阪)尼崎(兵庫)寝屋川の古豪、甲子園学院(兵庫)明徳商(京都)らの新進によって混戦状態といっていい(了)



NTS



ハンドボール誕生は1917年

最初は体操競技、そして陸連へ

ハンドボールの歴史（上）

1972年のオリンピック大会にハンドボールが正式種目として36年ぶりに再登場する。世界のハンドボール愛好者は〝オリンピック〟を目ざして長い間努力してきただけに、このオリンピックが待ち遠しい。昨年11月に西ドイツで第3回女子7人制世界選手権、来年1月スウェーデンで第6回男子7人制世界選手権があり、オリンピックへのステップは1年ごとに強くなってきた。そこでハンドボールの歴史を掲載しよう。これは昨年西ドイツで第3回女子7人制世界選手権大会のときに、西ドイツ・ハンドボール協会がまとめた報告書から抜すいしたものである。

西ドイツ協会報告書から

まずドイツで普及

ハンドボール（初期は屋外）の歴史は非常に古い。1920年までの間に形を整えたこの競技は、初めは体操競技（トゥルンシュピル）とみなされ、国内的にも国際的にも体操団体（アレスチック）がめんどうをみていた。1926年に国際陸上競技連盟（IAAF）がハンドボール委員会をつくり、同委員会がルールの統一を図った。

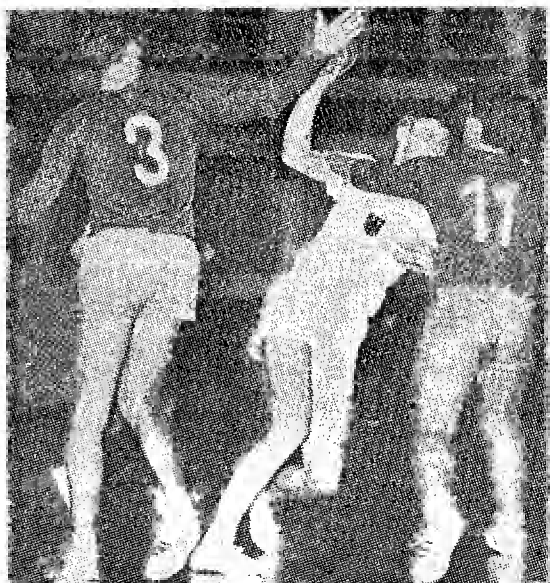
1928年にようやく独自の専門団体が創設された。国際アマチュア・ハンドボール連盟（IAHF）がそれである。ヨーロッパにおけるハンドボールの普及が主としてドイツ（とくにカール・シェーレンツとベルリンのドイツ体育大学〝ドイチェ・ホッホシューレ・フェア・ライベスユーブンゲン〟）によって行なわれたのだから、会長（ラング）と書記（ハスラー）がともにドイツ人だったのは不思議ではなかった。

初の国際試合は1925年

その3年前の1925年9月23日にハレで初の国際対抗試合が行なわれ、オーストリアがドイツを6—3で破った。IAHFが創設されてから2年後に初の女子の試合が行なわれた。1934年にIOC（国際オリンピック委員会）は1936年のオリンピック種目としてハンドボールを採用、1935年3月8日コペンハーゲンでデンマーク対スウェーデンの初の対抗試合（スウェーデンが18—16で勝ち）を行なった。1936年のオリンピック競技、1938年の初の室内ハンドボール世界選手権大会および同年の屋外世界選手権大会（この三つの催しはすべてドイツで行なわれた）は、世界のハンドボールの最初のクライマックスであった。

1946年にコペンハーゲンに国際団体が再建された。国際ハンドボール連盟（IHF）と称し、これがIAHFの後継団体で、いまも名称は変わっていない。初代会長はスウェーデン人のゲスタ・ビョルク氏、技術委員会の初代委員長はいまもその職にあるスイス人のエミール・ホルル氏である。1950年ウィーンで開かれたIHF総会は、会長にハンス・バウマン氏、理事長にアルベール・ワーグナー氏を選んだ。これら2人も現在までその職に留っている。

スウェーデンとデンマークは1945年と1946年に再び国際対抗試合を始めた。1948年フランスで第2回男子の屋外ハンドボール世界選手権大会が開かれたが、これは戦後、最初のIHFの公式の催しであった。このときはスウェーデンが世界選手権を獲得した。



〔西ドイツチームのルーマニア遠征から〕西ドイツのシュマックは、ルーマニアのモーゼル③とオテレア⑪をうまくかわしてシュート

1930年に女子の試合

1930年にプラハ（チェコ）で「世界婦人祭典」が開かれた。9月17日に世界で初めて公式の女子11人制ハンドボール国際試合が行なわれ、オーストリアが5—4でドイツを破った。1952年オスロ（ノルウェー）で屋外における初の女子7人制ハンドボールの国際試合があり、西ドイツが4—3でノルウェーに勝った。1953年にはキール（西ドイツ北部）で初の女子室内ハンドボール国際試合が行なわれ、ノルウェーが5—3で西ドイツを破った。次いで昨年（1965年）11月、西ドイツで室内7人制として初の世界選手権が行なわれ、ハンガリーが優勝した。（第1回女子7人制世界選手権＝1957年＝、第2回＝1962年＝はいずれも屋外で行なわれた）。

女子ハンドボールの歴史が本格的に始まったのは1949年である。戦前には女子の国際対抗試合は5回しかなかった。これに参加

したのはオーストリア、ハンガリー、オランダ、ドイツである。1945年から1949年までは、IHFによると女子の試合は年に1―2回程度だった。1949年にハンガリーが第1回女子屋外ハンドボール世界選手権大会を主催し、優勝することができた。1956年にはドイツで第2回女子11人制屋外世界選手権大会が行なわれ、ルーマニアが勝った。次いで1957年にユーゴで第1回女子屋内ハンドボール世界選手権大会が行なわれ、チェコが優勝した。

それいらい女子ハンドボールもますます普及した。毎年多数の国際対抗試合が行なわれている。1960年以降はヨーロッパ・カップも加わり、人気が高くなる一方。スティンタ（ブカレスト）スパルタク・ソコロボ（プラハ）またはトルード（モスクワ）などの東ヨーロッパのチームがつねに優勢であったのに、1965年初めてHG（コペンハーゲン）という西ヨーロッパのチームがこのカップを獲得した。（了）



〔西ドイツチームのルーマニア遠征から〕 ルーマニアのモーゼル(左)、西ドイツのシュマックとバードルの間からシュート

恐しいスピード
女子ハンガリーチーム

昨年11月の第3回女子7人制世界選手権大会（西ドイツ）に優勝したハンガリー女子ナショナルチームは、現在人気絶頂のところにある。このチームは1965年のハンガリー・スポーツ・ジャーナリスト大会の恒例の投票で、「ハンガリーの最優秀チーム」という名誉ある称号を贈られた。ボドッグ・トロク氏が監督としてナショナルチームに専念するようになってからもう10年になる。この10年間に全体的調和をつくり出したのは、彼の専門的な広い見識、教育学上および心理学上の彼のセンスおよび彼の忍耐と勇気であったといえる。17人の女子選手がすでにナショナルチームのワク内で育てられた。1962年ルーマニアでの第2回世界選手権大会当時から、昨年の西ドイツでの世界選手権大会までほとんど同じチーム編成で進んできた。

しかし、やはり前回から3年たつ間に大きな差異が現われている。その間に女子選手たちは多くのものを学び、特にスピードの分野で大きな進歩を遂げた。世界チャンピオンの名にそむかず、ハンガリーチームはヨーロッパ大陸各国チームのなかでやはり最もスピードがあるのでないかと思われる。ハンガリーチームの戦術にかんしては、ウィングの得点能力が目立つ点に注意すればよい。

目立つ選手としてはまずロムハインをあげよう。彼女の主たる特質は、だれかが後ろに回っても彼女は完全にこれを知っていることである。シュミット夫人はディフェンス面で目立った存在である。彼女はグラウンド上の相手を「消しゴムで消す」とさえいわれている。マグダ・ヨナ選手は得点力がすばらしく、すでに1957年いらいナショナルチームのメンバーである。

ハンガリーチームはきょうパリに遠征してくるが、その編成は1人の例外を除いて世界選手権大会のときのメンバーと同じである。その1人とは、世界選手権大会のときのすぐれたGKであるアンナ・ロッテルメルで選手である。彼女は所属クラブ変更の理由で、しばらくの間、選抜チームでプレーすることができないことになっている。それてハンガリーにGKとしてグリックスを連れて出発した。しかしシュミット夫人がそのポストの代役としてプレーすることになるものと思う。ハンガリーはすでに2週間の合宿を行なっており、その間に2練習試合を2回やり、ブタペスト・ジュニアチームを26―12で、また郵便連合チームを35―14で破っている。（了）

イスエルから弔辞

イスラエル体育協会、イスラエル・ハンドボール協会から、故式場隆三郎前会長の死去に伴う弔辞がこのほど日本ハンドボール協会に届いた。

―世界選手権予選から―

激戦!! スイス対西独戦

ミョーライゼンが128点(歴代3位)

予選のうちもっとも激戦だったのは、バーゼル（スイス）で行なわれたスイス対西ドイツの試合であった。B組でこの両チームの進出はまず決定的と考えられ、本大会で両国はダークホース的存在と考えられている。

この試合はバーゼルのコングレス体育館に4200人の観衆を集めて行なわれた。試合はスイスのベルナー・エビの連続シュートでスイスのリードで始まった。やがて10分までに西ドイツのポイントゲッターであるリョーブキング、ミョーライゼンのゲットで追いついた。さらに15分までにこの2人がさらに1点ずつ加え4―2と西ドイツがリードした。以後シーソゲームを繰り返し、西ドイツが1点もしくは2点リードしながら前半を8―7。西ドイツのミョーライゼンの活躍が非常に目立った。後半は7分まで両チーム無得点。8分にリョーブキングの7MTで西ドイツがリードを大きくした。スイスは18分ザイラーの連続ゴールで11―11と追いついたが、以後西ドイツのムンクの活躍で14―12と引き離された。26分にスイスはステプラーのシュートで14―13と1点差とし、懸命に西ドイツを追ったがついに1点差に泣いた。

この試合に6点をあげたミョーライゼンは国際試合で128点をあげ、ベルンハルト・ケンバの123点、マイヒルツアクの124点を抜いた。これは西ドイツ歴代3位の得点に当たる。現在最多得点王はヒニ・シュベンカーの212点であり、これに続くのが現在のポイントゲッター、ヘルベルト・リョーブキングの198点である。リョーブキングはおそらく今年中には最多得点を達成するであろう。新星ムンクは昨年国際選手になったばかりであるが、すでに40点の得点をあげ、驚異的なスピードで先輩たちを追い駆けている。（西ドイツ週刊誌から）

ドイツ 14（8―7 / 6―6）13 スイス

▽審判 ピーター・ピック（ユーゴ）

（得点）（西ドイツ）リョーブキング3、ムンク4、ミョーライゼン6、シュマック1、（スイス）ザイラー5、エビ2、ステプラー2、ブルノー2、シュベイングルーバー2。

ステラが中国遠征

―ステラ機関誌から―

われわれは日本遠征からすでに1年以上経過した。日本での写真やフィルムを見、そして持ち帰った記念品を眺めるたびに、きのうのできごとのようにあの魅力ある日本での思い出に沈んでいる。この遠征は選手にも役員にも永遠の思い出を残してくれた。ステラ・スポーツの選手たちは、この思い出だけに浸っているわけにはいかない。たえず新しいことを考えていかねばならないからだ。そして私はたぶん1968年というかなり先の地平線ではあるが、新しい目標が現われていることを諸君に披露することができる。それは中国遠征である。

3年先というのは（注＝この雑誌は1965年10月発行）長い先のことである。しかし私を信じてください。このような大遠征を準備するためには、ある意味では非常に短いとさえいえる期間である。われわれの経験に基づき、またわれわれは常にそれに学ばねばならぬのだが、できるだけ早く日本遠征の思い出から立ち直って、今度の遠征参加者が中国での滞在を最高なものにするようにすぐ準備を始めるべきだと思っている。

サンモールのステラ・スポーツのみなさん。そしてその家族のかたへ――再びフランススポーツ界を驚かせることになるこの中国遠征に、もう一度成功できるようご援助いただきたい。そのためにここで私は財政面でのみなさんの協力――貴重な援助をお待ちするわけであります。すなわちこの遠征を可能にする資金をどのようにして集めるかということであり、あなたがたのアイデアや助言を歓迎するものです。この遠征に関心を持つ者は、選手であれ役員であれ、いますぐよきアマチュアとしていっしょに財政面での参加が準備できるようご連絡願いたい。

ちゅうちょすることなく私にご一報ください。よく言うことではあるが、時間の経過は早い。だから新しい事業に成功するためには、できるだけ早く組織化しなければならない。

ステラスポーツ会長
ポール・クアレス

時評

保険や厳格な審判を
続出する試合中の負傷

最近、試合中に負傷したということをよく耳にする。今年にはいってからすでに2月の全日本実業団選手権で五味正義選手（宗形製作所）4月の西日本学生選手権で片山透選手（京都学芸大）がそれぞれ全治3週間のけがをした。このほか地方大会でも1月に愛媛で越智節生選手（今治西高OB）が骨折したのをはじめ、各地で10件近い負傷者を出し、しかもそのいずれもがかなりの重傷である。

これらの原因は7人制の研究、消化が進むにつれ、ますますプレーの展開が高度化、スピード化、大型化していることのように思われる。負傷のどれもが相手選手との激突によるもの。特にシュートのさい、GKとぶつかり合ってのけががいちばん多い。7人制統一後、試合中の事故が原因で死亡したのは、私の知るかぎりでは昭和39年12月の岐山高高木千尋君（当時17歳）。相手選手と激突して腹部を強打、そのまま入院して手当をうけたが、6日後に内臓破裂がもとでなくなった。

ある若手OBが、学生の試合を見ながら『こんなあぶないプレーを自分もしていたかと思うと、ちょっとこわくなりましたネ』と話していたが、たしかに最近のゲームは以前にも増してスリリングだ。こうした傾向は、ようやく日本に7人制ハンドボールがしっかりした根をおろし、各チームがきそってゴール周辺の攻防に複雑多彩な作戦を編み出し実戦に使い始めたことを実証しており、そのこと自体は歓迎すべきだと思う。粗暴なプレー、まして反則行為にたいし審判員の処置は現在あまりにも甘すぎる。審判規定の改正だけで負傷事故がなくなるとは思わぬが、少なくとも減少の方向には進むであろう。同時に、大会中や練習中の救急対策にも関係者は万全を尽くすべきである。

今年の大分国体から参加全選手に、大会会期中に大会前の2日をプラスした期間、傷害保険（最高50万円）がかけられることになった。ハンドボール界においても、各種大会でこの問題を考えてみたらどうだろう。試合には関係はなかったが、3月に中大が倉敷市でしたとき、百武忠明主将が練習中、心臓マヒで急死するアクシデントがあり、慶大合宿も故障者が続出して練習不能になったと伝えられている。

プレーへの研究が進めば進むほど危険度が増すといったら極言かもしれぬが、それにつれてプレーヤーの〝環境〟も、すべての面で改善されるべきだ。選手たちに安心してプレーできる場を与えてやることが、協会関係者、大会運営者、審判員、先輩といった人たちの義務なのである。（S・S）

× ×

ふたつのご対面!!

鷲尾武治

○…〔ご対面＝その1〕　3月22日に来日したチェコのブラスタ・チハコバ嬢は日大芸術学部に無事入学し、東京都練馬区に下宿し、自炊生活を送っている。4月13日にチハコバ嬢は大崎電気を訪問し、男女両チームの選手となつかしのご対面。作業服姿の今野監督は「こんな姿では失礼に当たる」と逃げ腰だったとか。五反田寮の広場で女子の練習を約30分見学し、このあと渡辺社長がポケットマネーを出して秘書の岩崎美栄子さんと3人で夕食をともにした。チハコバ嬢いわく「みんなの顔を見たら涙が出た。日本のハンドボールの人たちは親切ですね。これからは日本のハンドボールの試合を見に行きます」。日本語はなかなかうまい。なおチハコバ嬢は一年間日本に滞在し、日本美術のほかに日本の建築についても勉強するとか。

○…〔ご対面＝その2〕　2月26日の評議員会に出席した数原洋二氏（東京都協会副会長・三菱鉛筆社長）は、会議半ばで姿を現わした日本協会の青木近衛常務理事を見て「あの人はだれですか」と私に声をかけた。「あの人は青木さんといって日本協会の常務理事です。スポーツ少年団の育成にかけてはエキスパートです」と返事したら、数原氏は「あの人は確か私の中学（旧制の川崎中学）の体操の先生ですよ。アダ名はターザンといってよくシボられたことを覚えている」という。しばらくして数原氏は青木さんのところへ行き、久しぶりに恩師ターザンにあいさつ。高嶋理事長はこれを見て「どうしたんだい？」というかる。「青木さんは数原氏の恩師なんですよ」と教えたら高嶋理事長いわく「世間って広いようで狭いね。それにしてもこの評議員会の席上でご対面とは…」。

○…最近、新聞紙上にハンドボールの活字が目にとび込んでくる。シーズンといってしまえばそれまでだが、うれしいものである。4月14日の日刊スポーツ新聞には「日本女子リーグ、明春開催か」の記事が3段見出しで掲載された。その翌日には朝日新聞の連載もの「世界選手権をねらう(2)」に「ハンドボール・目ざす6位入賞」とあった。日本女子リーグといい、世界選手権といい、日本のハンドボール界にとって大きな事業である。世界選手権については、役員3人、選手16人のワクが決まり、5月下旬には派遣役員を決め、ナショナルチームを編成する。5月下旬以降の第2次合宿はすべて派遣役員にまかせ、役員の責任感と選手との人間関係を深める方針だ――と書いてある。実にいいことだと思う。それでなくちゃ6位入賞は望めない。前回はノルウェーを破って11位となったのだから、今度は2勝してベスト8にはいりたいものだ。とにかく朝日新聞がこれだけ書いてくれたことはうれしいね。

楽書帖

エールフランス

パリへの直行便 〈北極回り〉



ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・土〉
パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE
LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE
à Votre Service



東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表　東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表　名古屋市中村区広井町3－88　大名古屋ビル　電話（54）0540

中国チームの分析

たくましい精神力、根性
日本に差をつける優秀な体格

岡村昭二（日本協会常務理事）



ことし9月に中国チームが来日する。これは昨年4月に日本チームが中国遠征したときの答礼を意味するものであり、隔年おきに遠征することにもなっている。そこで本誌は、昨年日本チームの監督として中国に遠征した岡村昭二氏（日本協会常理事）に、当時のメモ帳から「中国チームの分析」についてまとめていただいた。

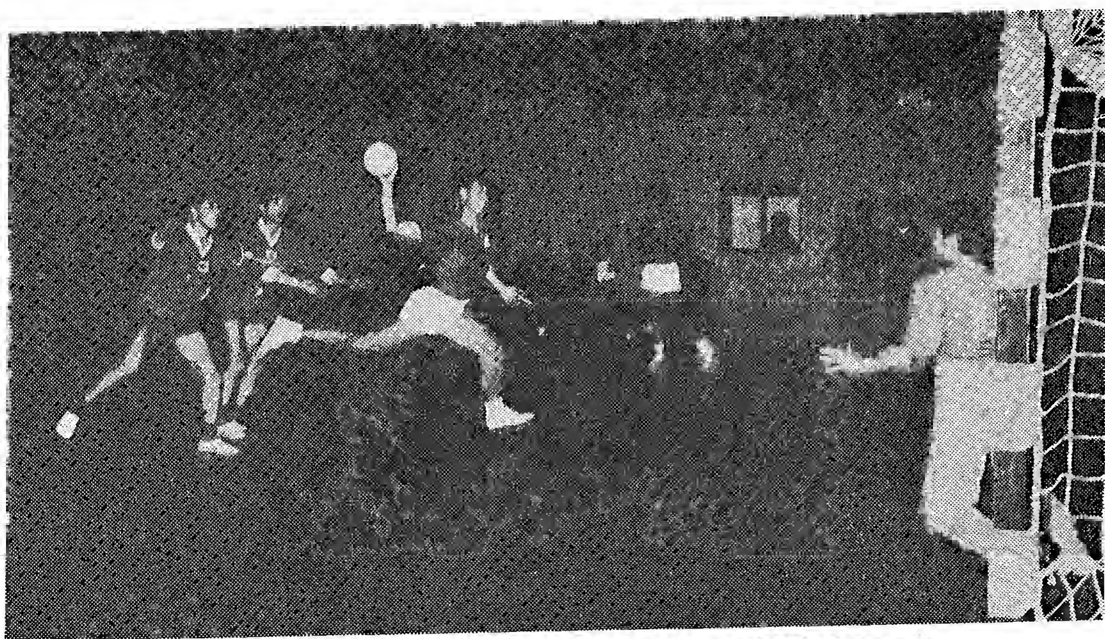

40年4月、中国遠征、日本対広州戦

試合にかんして

1、体　格

黒々と日焼けし肌はつやつやと光り、がっちりした肩幅、すばらしい体格。広州駅で花束をうけ、初めて握手したときの大きな手―広州チームであると同時に中国ナショナルチームである彼らの平均身長は178センチ。最高はGK陳維政186センチ。171センチの日本選手はインドアで練習したため青白くさえ見えた。彼らは日本招待を決定してから軍人を主としたピックアップチームの一員となり、日本を迎えるため約1カ月半豊富なカロリーと計画された訓練の合宿生活にはいっていたという。体格からいえば安徽省チームが最も日本ームに近かった。練習や試合で見せる彼らの能力は限りない可能性を秘めたたくましい迫力があった。強いバネ、バスケット式のピボットから急にターンして行なうサージャントジャンプの威力、強い筋力、握力、瞬発力。日本選手は試合球として使用した中国ボールに最後まで不慣れだった。試合ごとに連発するパスミス、キャッチミス、シュートミスはもちろんボールのせいのみではあるまい。やや大き目の皮張り、中国は初日からわれわれのためにそのボールを5個寄贈してくれた。まず両チームの力量はハンドリングで優劣がついた。

彼らは大きな手と強い握力でがっちりつかむ。そのために生じるミスはほとんどない。高い跳躍力―それも垂直とびは平均7センチの差のうえに、さらに大きなハンディをつける。高点からたたきつけるような強烈なシュート。またこれがすごく正確だ。GKはこれを押えるだけでも大きな努力を要したにちがいない。よくきく柔軟、機敏なからだ、ルースボールやボールカット、ダッシュからの急反転にみせる訓練されたすばらしい反射動作、キビキビしている動きは気持ちがいい。スピードある脚力は目のさえるようなスタートをみせる。ふんばった足、腰、腕の強さ。ガチッとした鋼鉄を思わせる。素質のうえに鍛え抜かれた完ぺきさを誇っている。もちろん対戦したすべてのメンバーがそうなのではない。中国が日本へ遠征するときは、これらのベスト15が



40年4月、中国遠征、日本対中国ナショナルチーム戦、岱（中国）のシュート

選ばれるであろう。（予想される現在の最高メンバーは後述する。）

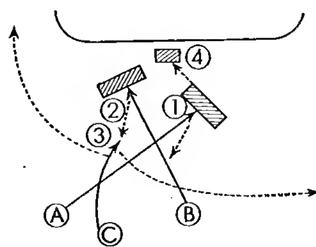
2、技　術

すぐれた身体、機能を有しているが、ハンドボール技術からみると未熟である。7人制を始めて2年だから日本と大差ないが、ハンドボール歴は浅い。中国でのハンドボールはまだまだ普及しておらず、全国大会は一度も開かれていない。しかし忠実にプレーする彼らの技術はルーマニア、ソ連から仕入れたものであるが、消化しないまま、あえてそれを取り入れようとはしていなかった。その証拠に試合はすべてバスケット式だ。中国のバスケット熱はたいへんなものだ。万里の長城の八達嶺近く、民家が数軒しかない山の中腹にでき、村民のためのバスケットコート1面があり、木製のゴールが立っている。厚い層の中から優秀な者を選抜したので、むりにバスケットの型をくずさず、攻撃時はカットインプレー、スクリーンプレーをセットから多用し、それに強烈堅固なブロックプレーを加味している。フェイントを含めたピボット動作が多いので動きそのものは堅い感じを受ける。ブロックは1地点に3人が次々に飛び込んで形成するときもある。

このタイミングは実に早く瞬間的であり、日本ディフェンスの動きを上回るときが多かった。それも1人がブロックにはいると、次の者がすぐにシュートコースにはいる。しかし、シュートが阻止されると、ピボットターンでサージャントジャンプシュートを打つか、3番目のフォローにパスされ、2番目がブロックにつき、最初の者は直ちにポストの位置を占める。そして次の動きに進展されるのである。基本型が忠実に組み合わされ、決してむりはしない。ミスがほとんどない。そのためシュートポイントは実に確実である。

またポストにはいった者は、常にポストとブロックの責任を遂行する動きを持っているので、チームとしてのゲーム運行に切れ目が少ない。これはチャンスを自ら作り、強引に縦に押し込んでくるプレーとともに流動性のある強みを持っている。もちろん、ロングとポストのかみ合わせ、中央防御が堅固なときはサイドに回し、サイドからのシューターはフェイントの山型シュートでGKを苦しめる個人技やゲーム感覚も持っている。サイドシュートのときの滞空時間は実に長い。

日本はピボットターンによるジャンプシュートや大きなストライドで飛び込んでくるカットインプレーのときなどのチャージングにずいぶん痛めつけられた。私は審判にバスケット式ではないことを



<説明>
Aは①でシュートまたはブロック不成功時には④でポストになる。
Bは②でシュートまたはブロック。
Cは③で不成功ならボールをサイドが中央に回す、決してむりはしない。

何回も申し入れたので、このあとの試合ではだいぶよくなった。日本のディフェンス面での大きな課題は、ブロックプレーと強引なシュートに結合する飛び込みにたいして、一歩早くボールコースとフォロコースを出足でつぶすことであった。マンツーマン・ディフェンスになることを極力避け、コンビで破ることに努めた。特にバスケットテンポなのでハンドボール型のディフェンスではタイミングがずれてしまうことが多かった。これは今後の研究課題にしてよい

と思う。

ディフェンスは1—5だが、ときに変形2—4になる。マンツーマンとゾーンのかみ合わせがうまい。前方に位置する者が特にカットをねらっている。最初30度外は重視していなかったが、日本のサイド攻撃ですぐディフェンスの布陣を変化するなどソツがない。特徴はディフェンスがあまり大きな動きをしないことだ。そのためか、日本のフェイントのはいった奇襲シュートはよく成功していた。つかむ、押す反則は多い。ソ連から仕入れたものか、フットワークはマスターしているから、からだのバランスがくずれることは少ない。カットやフリースローで中国ボールになったときの切れ味のいい動きや、日本ボールになってからの帰陣などは実に敬服に価する。彼らは「すべてを日本から学びたい」といっていたが、とんでもない話。われわれが習うべき点が何と多かったことだろう。

「気迫」は技術をよりコントロールするが、日本を数段上回っていた。彼らは「国家」から選ばれたことを大きな栄誉とし、誇りに思っているから試合における自覚度、根性、気合いはすごいものだ。たとえば、5月2日の第7戦（北京）で、中国ナショナルチームと対戦したとき、前半10分までに日本は5—1と完全に試合の主導権を握った。このとき、ヒザに水がたまり、ベンチを温めていた中国最優秀選手の劉延江がはいり、またたく間に5—4と詰め寄り、日本の足を止めてしまった。彼はビッコも引かず、苦痛の表情を見せない。全く他のプレーヤーと変らぬ激しい動き。そこに何らの悲壮さもない。この気概！このたくましさ！。

日本選手はどう感じたろう。いきり立ち、興奮し盲進するのは闘志でない。それらは焦燥やミスや破壊を呼び込むだけだ。中国選手の精神力の偉大さをガーンと頭にたたき込まれた。日本選手は国内での試合のようなゲーム感覚が抜け切らなかった。通るパスもカットされる。取れるルーズボールも取られてしまう。オフェンスに強い者はディフェンスが弱く、ディフェンスに強い者は攻撃力が不足する。GKのボール出しは何度失敗したことか。気ばかり先に立ってしまうのか、パスやキャッチミスの何と多いことか。走れない。動けない。キャリアは中国選手の数倍あるのに フリースロー、速攻、また帰陣のさいのおそいこと。同じあやまちを繰り返す。ベン

日本チーム試合技術統計表

	期日	対戦名	シュート 次数	シュート %	得失球 得球	得失球 失誤	速攻 次数	速攻 %	遅攻 次数	遅攻 %	7mスロー 次数	7mスロー %	日本得失点 得点	日本得失点 失点
			A				B		C		D		E	
1	4・18	広州	16/44	36.3	13	31	4/13	30.7	12/54	22.2	3/4	75	19	29
2	4・20	安徽	30/57	52.6	22	22	5/17	29.4	25/64	39.6	0/0	/	30	20
3	4・21	中国	13/48	27.1	23	32	6/18	33.3	7/71	9.8	1/1	100	14	26
4	4・24	上海	17/50	34.0	14	20	4/20	20.0	13/61	21.3	1/3	33.3	18	26
5	4・25	中国	13/42	31.0	9	22	3/16	18.7	10/56	20.0	1/2	50	14	26
6	4・27	安徽	16/57	29.8	11	15	4/21	19.1	16/52	23.1	1/2	50	17	19
7	5・2	中国	14/45	35.5	10	20	2/12	16.7	12/76	18.4	2/2	100	16	22
8	5・3	北京	15/48	31.2	9	29	3/17	17.6	12/68	17.6	0/0	/	15	16
9	5・5	上海	12/49	24.4	14	34	4/19	21.0	8/73	10.9	0/1	/	12	19

（注） 説明（1のらん）
○16/44はシュート44で、ゴールイン16ということです。
○得失球は、ゴールスローを除いて日本ボールになった時と、ミスや反則で相手ボールになった回数
○速・遅攻はその状態にはいった時と得点
○したがって B＋C＝A A＋D＝E となる。

彼我比較表

試合	第1戦			第2戦			第3戦			第4戦			第5戦			第6戦			第7戦			第8戦			第9戦		
項目	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
日本	3	8	8	1	4	13	1	4	9	1	2	13	1	3	12	3	7	11	0	4	10	0	1	12	2	2	9
中国	2	4	13	2	0	12	0	1	13	0	3	10	0	2	13	2	2	10	0	2	8	1	0	9	0	1	11
名	広州			安徽			中国			上海			中国			安徽			中国			北京			上海		

（注） 項目説明 1. 2分退場者数（それ以上なし） 2. 7mスローをとられた件数
3. 出場者数（エントリー13人）



40年4月、中国遠征、日本チームと上海チームの記念撮影

チも不じゅぶん（メンバーチェンジにおける配慮、作戦）ではあるが、国内試合で見たこともないような欠点をさらけ出したプレーの連続。たぶん選手は「9戦中、少なくとも6勝はできたはずだ」と思っていたにちがいない。私もそう思う。北京学生、安徽、上海に5勝し、中国ナショナルは4戦で2勝2敗。（広州はナショナルと同メンバー）。

日本のミスが相手の得点に直結したケースは実に多い。技術的には日本選手の方が上位であるが、個々の力は中国のほうがすぐれている。中国選手のほとんどは日によって、波が激しいことも技術の未熟さを物語っている。もっとメスを深部まで入れなければならないが、日本の敗因は精神力の弱さにあったと考えられる。日常生活と試合のスイッチの切り換えがゆるんでいた。日常生活の緩慢な惰性が試合のときにもかぶさったままであったといったほうがいいかもしれない。それは特に最初のころ、珍しい中国料理のためもあろうが、体重オーバーの者すらあった。甘い自分勝手な考えがチームにとって大きな損失を招く好例である。

予想される中国の最強メンバー。カッコ内は所属（広）…広州市（上）…上海市（安）…安徽省（北）…北京大学

GK　陳維政(広)、李宝栄(広)
FP　劉延江(広)、楊霊藩(広)、卜憲章(広)、袁志祥(広)、李志連(広)、鄧福宝(広)、荊元倫(北)、朱炳亢(北)、張漢忠(安)、鄧昭民(安)、張玉林(安)、何啓芳(上)、沈　東(上)、以上15人。

広州はほとんど軍隊チームで、ルーマニアが日本へくる途中、中国と試合（11人制）をしたときのメンバーが多い。

審判について

李光佳、王明亜両氏が全試合同行した。王氏はうまく、日本のA級に匹敵する。ゴールジャッジも態度が厳正で動作明瞭。レフェリーの欠点は反則時の長い笛、ゼスチャーが多く長いので、フリースローのときなど混乱を起こす。アドバンテージに弱い。プレーを中断しすぎる。チャージの判定基準が違うなどがあった。私は、4回話し合った。この欠点はしだいに修正された。退場は一度警告し、同一人が2度目になると退場させるていねいさであった。私の審判法や懇談で判定基準がぐらつき、不明瞭な判定が下されたときもあった。しかし研究熱心で通訳のいないときは、ゼスチャーと筆談と図示で語り合った。

観衆

マナーは実によい。敵味方なく拍手を送る。中にはルールを知らない者が大部分のはずなのに、口笛、野次などいっさいないのはもちろんだが、緊迫したときにはシーンと固唾をのみ、ファインプレーやスポーツマンシップには割れるような拍手。

競技場

①広州市立体育館

34m×20m。フロアーはジクザク板目で全然滑らない。気温25度、湿度95%、換気装置がないのでムッとしていた。照明はつり下げの白熱灯でやや暗いが、プレーに支障はない。各競技場では試合のときはもちろん、トレーニングのときでも接待はたいへんなもの。シャワーのためにはスリッパ、タオルまで取りそろえてくれる。

②上海文化公園体育宮（屋外）

㋑屋外コート　40m×20m。ほどよい転圧とスプリングのきく荒楽田（アラキダ）のコート。昔の競馬場跡。コート上は夜間照明の普通の電灯がぶら下がっている。

㋺上海市江湾体育館　37m×20m。フロアーは滑らない

③北京市総工会（工人）体育館（円形で15、000人収容）

38m×20m。フロアーは新築のためかよく滑る。滑り止めの松ヤニもあまりきかない。（了）

西ドイツの技術研究(2)

欧州では一線防御
攻守ともに見渡せる利点

訳 藤本 強
（日本協会理事）

☆ 0―6守備体制 ☆

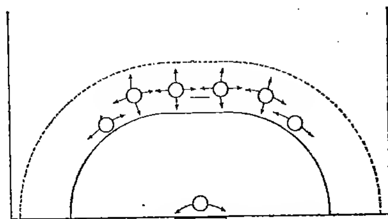
日本で11人制ハンドボールを全廃し、7人制ハンドボールに全面的に切り替えてからちょうど3年たった。その間の7人制ハンドボールの発展は目ざましいものが見られる。7人制特有のいろいろな技術の習得に、初期にはとまどいがちであった防御の方法も、最近は非常にうまくなってきているのは周知のとおりである。7人制の防御はいろいろな陣形があるが、いずれも地域防御を主体としたものであるのはいうまでもない。11人制のハンドボールで対人防御を採用していた西ドイツ、スイスなどでも、7人制ハンドボールの防御には地域防御陣をしいている。

7人制ハンドボールの防御には、一線防御（0―6）、1―5、2―4、3―3などの陣形がある。最近の日本の状況をみると、多くのチームが1―5、あるいはそれの変形である1―2―3の陣形をとっている。ハンドボールの盛んなヨーロッパ諸国でも、我が国とほぼ同じような状況にある。しかし近年、一線防御にたいする再認識が起こりつつある傾向にある。もちろん、これはヨーロッパのからだの大きな選手が壁になることによって、有効に生かされる陣形である。からだの小さい日本の選手にそのまま適用できるかということになると、いささか問題がある。こういった傾向がヨーロッパにあり、一線防御がどのような形で行なわれているのかを紹介してみたいと思う。

以上に紹介するものは、0―6の防御陣形は将来のものであるという副題のついたものであり、昨年の3月、プラハで行なわれたハンドボールにかんするシンポジウムでも同様の趣旨のものが発表されている。このシンポジウムで発表されたものについても、いずれ紹介するつもりで準備している。

☆ ☆

コーチ、監督をやっている諸君から、きっと多くの質問が寄せられることと思う。まず手近に0―6防御の基本的な方法についてお話ししよう。実際の運用に当たって出てくるいろいろな問題は、コーチ諸君に助けていただき、解決していきたいと考えている。まず一般的なことからはいることにしよう。


第1図 基本的な位置

近年の室内ハンドボール競技のすばらしい発展は、多くの防御陣形（0―6、1―5、2―4、3―3）によることはいうまでもない。それらはいずれも現に使用されているが、それぞれ長所と短所がある。守備陣形が戦術的にも、また技術的にも整備できてるかどうかによって、各チームの戦力は非常に大きな影響を受けるのは当然のこと。守備陣形にたいしていささかでも考慮を払い、それに対応しての練習を積んでいるチームならば、常に変化する相手の攻撃フォーメーションに対抗することのできるいくつかの守備陣形を持っている。これがチームを勝利に結びつけることになる。

守備陣形にたいして刻々変化する攻撃陣形。それに対応して戦術的に巧みに変化させ、次々と新しい局面に対処できる守備陣形を備えることは急務である。室内ハンドボール競技で、この陣形の変化を戦術的に利用することが非常にたいせつです。このさい、守備側も攻撃側もすべてが見渡せる位置にいることが望ましい。

現在の室内ハンドボール競技は各選手にかなり高度の技術を要求している。この技術の前提として、各選手がこれらの多くの変化する攻撃体制、守備体制をよく知っていることが必要です。最後に、コーチは選手たちにただ多くの技術、戦術の意味をたたき込むだけではだめです。試合中に実際の変化についていけるような、能力を身につけさせなければならない。この点にかんしてのコーチの注意と戦術のとり方が、試合の場合にその勝敗を動かすことになる。

では次にコーチは0―6の守備陣形を使用するのになにを準備したらいいのか、それをここに紹介する。

(1) 当然のことだが、心身ともにじゅうぶんな準備が必要。これがないと、このシステムは台なしです。この守備体制が有効になるためには選手が大きく、力強く、すばやく、スタミナがあることが必要。

(2) 攻撃のできる部分すべてに「壁」をつくり、すばやい前後

の動きでアタックする。

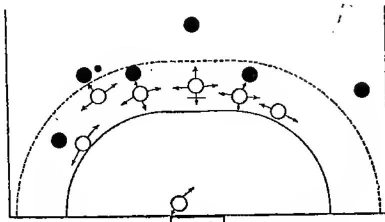
（3） 守備に深さがないので、ポストにはいっている選手にはじゅうぶん注意しなければならない。

（4） 攻撃側の選手の動きはすべてよく見る。守っているものはゾーンディフェンスの原理にしたがって連絡をよくとることが必要。

（5） キーパーのいいチームは、守備の範囲を狭くすることができる。これは0―6システムの欠点をじゅうぶん補ってくれる。

（6） この位置からどのような守備体制にも変化できる。しかもこの変形はすばやく行なうことができる。

（7） このシステムは非常に単純だ。単純なものは力強いものになる。



第2図　相手にたいする位置

（8） しかし逆に、このシステムに有効な攻撃方法になることもあるが、これはごく限られた場合のみ。

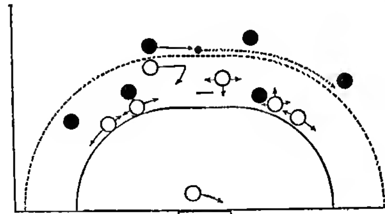
（9） このシステムは国内試合でも国際試合でも、しだいに多く使われるようになるだろう。

このような観点に立って、個々の選手がいかにプレーしたらいいか。チームとしてはどのようなコンビネーションをとるか、キーパーとの連絡はどのようにしたらいいのか次に説明する。

A、基本的な位置について（第1図）

（1） 6人の選手が並び、手を上げて少し曲げ、守備位置につく。

（2） いちばんサイドにいる2人の選手は、決してエリアラインを離れてはいけない。



第3図　コンビネーション

（3） 中央にいる4人の選手はエリアラインから1歩前に出て、基本的な位置をとる。

B、個人の任務（第2図）

（1） 腕を守備体勢にする。

（2） きき腕を守り、相手のフェイントにひっかからないようにする。

（3） ボールを持っているものにたいしてカットをしたり、アタックする。しかし、このとき9メートルラインを越えてはいけない。

（4） 守備の頂点を作る。このクサビ状の頂点はボールとともに動く。

（5） 敵の切り込みには勇気を持ってからだでぶつかる。特にきき腕は腕でじゅうぶん防御する。

（6） 前後へのフットワークを怠らずやる。

（7） 相手がボールを離したら、すばやく元の位置に帰る。

（8） エリアラインについていき、できるだけ相手の近くにいて相手とボールの行くえをよく見る。

（9） いつでも攻撃側選手の正面にいること。

（10） 走ること、投げることに伴うフェイント動作にごまかされないこと。足を軽く曲げ、両足をしっかり地面につけ、前後左右へすばやく動けるような体勢にしておくこと。

（11） 相手のボールにたいして正しく当たること。

C、コンビネーション（第3図）

（1） 守備をしているとき、相手の選手が自分の前にゆっくり走ってきても、その選手がボールを持っていなければ放っておくこと。

（2） 6人の守備選手はボールのあるサイドの方へ寄ること。「壁」となるこの6人は停止していてはいけない。

（3） サイドからのシュートを打たせない。

（4） ボールを持っているものをアタックした場合、他の選手はポスト（相手）の選手には隣にぴったりくっつく。

（5） 攻撃の中心地点には、攻撃側の選手の数よりも守備側の選手が少なくならないように注意。

（6） 他の相手を守っているのに、相手のもう一人はいってきたなら大声で「チェンジ」と叫ぶこと。この呼びかけは非常に有効で、コンビのとり方はこれで決まる。

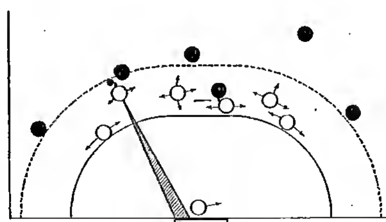
（7） 選手間のコンビは、お互いに自分のマークしている選手を視野に入れておくことで、さらに緊密になる。

（8） 自分のチームの選手の動きとボールの動きをよく注意する。ボールはカットできる。

D、ゴールキーパーとの連絡（第4図）

（1） きき腕側のゴールのコーナーをつぶす。反対側の、つまりきき腕でない側のコーナーを守ればよい。

（2） 守備の頂点の隣にいる防御者は、シュートの角度がさらに狭くなるようにする。手をちょっと伸ばすだけで効果がある。



第4図　キーパーとの連絡

（3） よい位置をとることをゴールキーパーは指示する。心身ともにじゅうぶん鍛えられ、ハンドボールをよく知っている選手なら、この0―6システムは非常に有効だということがすぐわかる。このシステムは、すぐ相手の攻撃に対処して変えることができる。すばやいアタックとすばやい守備陣形の変化によって、このシステムはどのような攻撃体制にも有効です。0―6システムは将来の守備体制ということがいえる。（了）

球界パトロール

熱心な沖縄の選手たち

熊本女子クラブ・沖縄の旅

熊本市立女子高校の卒業生で結成して熊本女子クラブは毎土曜日、母校に集まってハンドボールを楽しんでいる。このクラブの特色は、ハンドボールをやりながら社会見学をしようというのがねらい。昨年の宮崎遠征に次いで、ことし3月に沖縄へ遠征した。これはそのときのリポートである。

七色ブルーに輝く沖縄の海が、いまもはっきりと私の脳裡によみがえる。あんなにきれいな海の色を、私はそれまでに一度も見たことはなかった―。沖縄遠征の思い出をいまここにつづりたい。

3月26日午前7時熊本駅集合、準急「なぎさ」で鹿児島に向かった。ただいつもの旅行とは違っていた。目的地は気軽に行けるところではない。日本人の住む沖縄ではあったが、ビザの手続きは私たちの胸をときめかせ、落ち着きを与えなかった。鹿児島で出国手続きをすませると、琉球海運のひめゆり丸に乗船した。真っ白い大きな船体が、まだ見ぬ地をいろいろに想像させてくれた。船を揺るがすほどの大きなドラの音が響くと船は静かに港を離れた。

男女チームがいっしょに

3月28日―この日は私たちの旅行の目的のひとつであるハンドボール親善試合の日である。昨年熊本市で行なわれた全国高校選手権大会のとき、沖縄から参加した高校男子の興南高校をはじめ、女子チーム三校がいっしょに私たちのチームとでなごやかに行なわれた。

最初は技術指導の形をとり、那覇高校グラウンドを駆け回った。北川浩先生のコーチのもとに私たちの指導も力がはいった。もちろん日本国内では、私たちは及ばないほどの技を持ったハンドボーラーがたくさんいるのは百も承知してはいたが、沖縄での私たちの存在もまんざらではなかったと自認している。実に親善試合そのものであった。限られた時間では思うぞんぶん知っていることを吸収させることはできなかったが、バスの発車時間ギリギリまで指導に当たった。

ものすごい意欲

沖縄のハンドボールの選手たちは実に熱心だった。私たちの説明をよく聞き、そしてそれを忠実に守った。男女入り乱れての練習。だれもが汗をふこうともしない。真剣な目付き。なんでも吸収しようというものすごい意欲がよくわかる。Aグループでスローイングの練習、Bグループでは防御の練習、Cグループはシューターにたいする詰め、フットワークと1分の時間も惜しんでやった。北川先生の話によると「沖縄の選手たちは、私たちの前回の遠征のときよりも非常にじょうずになった。そしてハンドボールというものが、少しずつわかってきたようだ。あまりスピードはないが、内地のチームは安心きでない。とにかく熱心なのには驚いた」といっていた。

自由時間も練習に

29日の午前中は沖縄中部の観光。午後は自由行動の時間。私たち一行は大部分は教職につき、体育を担当しているのでやはりその気持ちが大いに発揮される。前日の親善試合のとき、まだたりなかったとみえて、ユニホームを着て那覇高校に出かけて行った。やはりみんなハンドボールが好きなんだ。ハンドボールの底辺拡大のために……私はそう思った。31日の帰りの船は、ひめゆり丸のエンジン故障で波の上丸に変更。短い沖縄の旅もあっという間に過ぎてしまった。もっといたい。そしてもっと沖縄の人たちに私たちのハンドボールを知ってもらいたかった。（熊本市大江高校教諭・徳富美代子）



那覇高校でコーチする

連載第22回

ハンドボール球史

〜関西学生編・最終回〜

昭和30年の関西学生リーグは、春は同大が関大と引き分けながらも最終日に関学を破って優勝、秋への期待を高めた。しかし関学はさすがに強い。王座決定戦出場をかけた秋には〝強い〟ところを見せ、1シーズンで首位の座を奪回した。下位では、秋に神戸大が1部に初昇格。フレッシュな話題をまいた。

▼昭和30年春季

関学	20—5	大阪市大
関大	11(分)11	同大
立命大	9—7	大阪歯大
関学	23—1	立命大
関大	14—4	大阪市大
同大	8—4	大阪歯大
関学	23—8	大阪歯大
関大	15—5	立命大
同大	12—4	大阪市大
大阪市大	6—4	大阪歯大
関学	19—10	関大
同大	15—5	立命大
関大	14—5	大阪歯大
立命大	7—2	大阪市大
同大	9—8	関学

【順位】①同大4勝1分け（2シーズンぶり2回目）②関学4勝1敗③関大3勝1敗1分け④立命大2勝3敗⑤大阪市大1勝4敗⑥大阪歯大5敗

【二部】①大阪経大

▽一・二部入れ替え戦

大阪歯大　9—8　大阪経大

〝秋の関学〟揺るがず

▼昭和30年秋季

同大	13—7	大阪歯大
関学	26—4	立命大
関大	18—4	大阪市大
関学	17—5	関大
同大	10—4	大阪市大
大阪歯大	9—3	立命大
同大	19—5	立命大
関学	17—0	大阪市大
関大	22—5	大阪歯大
関学	16—3	大阪歯大
同大	10—6	関大
立命大	6—3	大阪市大
大阪市大	5—4	大阪歯大
関大	20—11	立命大
関学	7—4	同大

【順位】①関学5戦全勝（2シーズンぶり14回目）②同大4勝1敗③関大3勝2敗④大阪歯大1勝4敗⑤立命大1勝4敗⑥大阪市大1勝4敗（4・5・6位決定リーグ＝大阪歯大13—10立命大、大阪歯大6—2大阪市大、立命大8—6大阪市大）

【二部】①神戸大

▽一・二部入れ替え戦

神戸大　7—4　大阪市大

西ドイツ戦の開催拒む

昭和31年は西ドイツチームが来日した年で、関西学連には予想もしなかった問題が生じた。本場の技術を目のあたりにする最初の機会だけに国内の関心は高く、特に学生界のトップゾーンと自他ともに許していた関西学生界は闘志を燃やした。9月27日関西学連の主管で、関西学生を中心とした全日本学生選抜チームが第7戦を西宮でまじえることに決まり、一層の盛り上がりをみせた（注・関東側を主力の全日本学生チームは第1戦として横浜で対戦）。ところが、球界初の欧州ナショナルチームの来日とあって、この国際試合（計8戦）は運営面や全日本選抜の選手選考問題など準備段階ですでにいくつかの物議をかもしていた。

こうした暗い動きに、関西学連はせっかくのチャンスを自ら捨てることをもって協会の反省を促そうと、8月27日大阪で田辺治理事長（関大OB）が『国際試合開催拒否と球界の粛正を要望する』旨の声明書を発表したのである。関係者あげて待ち望んでいた国際試合実現を目前にして、このような態度をとらねばならなかった関西学連の心中は複雑なものがあったにちがいない。

余談になるが、第7戦はその後、全四国（松山市）の試合に決まりかけたが、結局は関東学生選抜が甲府市で対戦。このときのチーム編成問題が後日、早大など5大学の関東学連脱退の一因に発展した。

ともあれ、創立当初から「独立精神」と「野党的性格」をもっていたといわれる関西学連のこの声明は『従来からも日本ハンドボール協会の理不尽な態度に不満を持っていた関西学連がまんの限界にきたものではないか』（8月28日付け朝日新聞）と解説されたほどである。関西学連史はもとより日本ハンドボール史の中でも、消すことのできない事件となった。

（この項文責在記者）

リーグ戦では、関学が3年ぶり7回目の春秋連続優勝を遂げて強味を誇った。なお、秋季で名門大阪歯大が最下位となり、入れ替え戦にも敗れて2部に転落したのは、寂しい話題だった。

▼昭和31年春季

関学	15—10	神戸大
同大	10—4	大阪歯大
関大	7—5	立命大
関大	4—3	同大
関学	13—3	立命大
神戸大	6—3	大阪歯大
関学	19—4	大阪歯大
同大	11(分)11	立命大
神戸大	17—16	関大
同大	13—12	神戸大
関学	11—4	関大
立命大	9—8	大阪歯大
神戸大	11—5	立命大
関大	12—5	大阪歯大
関学	12—8	同大

【順位】①関学5戦全勝（2シ

ーズン連続15回目）②関大・神戸大3勝2敗④同大2勝2敗1分⑤立命大1勝3敗1分⑥大阪歯大5敗＝2部順位不明

▼昭和31年秋季

関学 26—4 大阪歯大
同大 8—7 関大
立命大 12—7 神戸大
関大 15—8 神戸大
関学 21—5 立命大
同大 22—4 大阪歯大
関学 13—8 同大
立命大 9—4 関大
神戸大 8—4 大阪歯大
関学 18—7 神戸大
関大 16—3 大阪歯大
同大 9—7 立命大
立命大 14—8 大阪歯大
同大 7—6 神戸大
関学 10—8 関大

【順位】①関学5戦全勝（3シーズン連続16回目）②同大4勝1敗③立命大3勝2敗④関大2勝3敗⑤神戸大1勝4敗⑥大阪歯大5敗

【二部】①大阪経済大

▽一・二部入れ替え戦
大阪経大 9—6 大阪歯大
大阪経大は12シーズンぶりに一部へ復帰。大阪歯大は初転落。

▼昭和32年春季

関学 14—6 大阪経大
同大 10—3 関大
立命大 8—2 神戸大
同大 8—4 立命大
関大 7—6 関学
関大は初めて関学を破った。
同大 11—3 神戸大
大阪経大 7—5 立命大
同大 9—4 大阪経大
関学 18—8 立命大
関大 16—1 神戸大
関学 18—4 神戸大
関大 6—4 大阪経大
大阪経大 12—5 神戸大
関大 10—9 立命大
同大 8—7 関学

【順位】①同大5戦全勝（4シーズンぶり3回目）②関大4勝1敗③関学3勝2敗④大阪経大2勝3敗⑤立命大1勝4敗⑥神戸大5敗

【二部順位】①大阪歯大3勝1敗②大阪市大3勝1敗（1位決定戦大阪歯大8—6大阪市大）③甲南大・大阪府大2勝2敗⑤大阪工大4敗

▽一、二部入れ替え戦
神戸大 記録不明 大阪歯大

【三部順位】①京大3戦全勝②阪大

▼昭和32年秋季

関学 20—19 関大
大阪経大 9—6 神戸大
同大 25—7 神戸大
立命大 14—9 大阪経大
関学 22—9 立命大
同大 記録不明 大阪経大
関大 21—3 神戸大
関学 14—9 大阪経大
関大 5—3 同大
関学 22—4 神戸大
関大 12—5 大阪経大
同大 15—10 立命大
立命大 19—11 神戸大
関大 13—10 立命大
関学 21—10 同大

【順位】①関学5戦全勝（2シーズンぶり17回目）②関大4勝1敗③同大3勝2敗④立命大2勝3敗⑤大阪経大1勝4敗⑥神戸大5敗

【二部順位】①大阪歯大②大阪市大③大阪府大④大阪工大⑤甲南大

▽一・二部入れ替え戦
神戸大 8—3 大阪歯大

【3部】①京大

大阪経大3位

▼昭和33年春季

関学 17—5 神戸大
大阪経大 5—3 立命大
関大 11—9 同大
同大 記録不明 神戸大
関大 21—2 大阪経大
関学 19—10 同大
立命大 9—7 神戸大
関学 13—5 立命大
関大 記録不明 立命大
大阪経大 12—11 同大
関大 21—3 神戸大
大阪経大 10—4 神戸大
関学 記録不明 大阪経大
同大 13—11 立命大
関学 16—15 関大

【順位】①関学5戦全勝（2シーズン連続18回目）②関大4勝1敗③大阪経大3勝2敗④同大2勝3敗⑤立命大1勝4敗⑥神戸大5敗

【2部】①大阪市大

▽一、二部入れ替え戦
神戸大 7—5 大阪市大

関学、同大で優勝決定戦

▼昭和33年秋季

神戸大 7—5 大阪経大
同大 9—8 関大
関学 24—2 立命大
関大 20—1 立命大
関学 12—0 大阪経大
同大 14—2 神戸大
立命大 2（分）2 大阪経大
関大 13—0 神戸大
関学 8（分）8 同大
関大 16—2 大阪経大
同大 記録不明 立命大
関学 24—2 神戸大
神戸大 6—5 立命大
同大 15—5 大阪経大
関学 11—9 関大

▽優勝決定戦
関学 16（8—4 8—7）11 同大

創立11年目で初めて秋の首位が関学以外の手に渡るか注目されたが、関学は前半にうまく主導権を握り制勝した。

【順位】①関学4勝1分（3シーズン連続16回目）②同大4勝1分③関大3勝2敗④神戸大2勝3敗⑤立命大1勝4敗⑥大阪経大5敗

【二部】①京大6勝1敗②大阪歯大6勝1敗（1位決定戦京大9—8大阪歯大）③阪大5勝2敗④甲南大・大阪工大・大阪府大⑦大阪市大⑧大阪学芸大

▽一・二部入れ替え戦
京大 11—4 大阪経大
京大は17シーズンぶりに一部へ復帰。

本誌27号から連載の関西学生編は本号をもって終結としたい。

なお昭和34年春季以降は次のように本誌各号に掲載されている。

（ ）内は優勝校。

（来号の球史は全日本学生王座決定戦編とします）

―球界パトロール―

子供らとボール遊び

底辺拡大はここから

底辺拡大──いったいどんなことをやったら底辺を拡大し、一般の人たちに普及できるか。私はしろうとなりにそんなことを考えている。東京オリンピックで日本が惨敗してから、日本体育協会やJOCの連中は急に「底辺拡大」を唱えている。その当時、私は「底辺拡大」ということばを聞いただけで笑い出した。それはなぜか──つまり、オリンピックで惨敗してからやっと気がついたからだ。東京オリンピックにハンドボールが種目としてはいっていなくてよかったと思っているくらい。もしハンドボールが日本のスポーツファンの前に登場していたら、それこそ日本協会の人たちは苦労したことだろう。日本のスポーツ界の頂上にいる人たちの考え方は、われわれの考えていることと大差ないことがわかった。

幼児も見学

能書きはこのくらいにして、底辺拡大をどうすればよいのか。私は全くのしろうと──ただハンドボールが好きで、なんとなく見ているうちに20年たっただけのこと。根っからのハンドボール愛好者。だから、なんとかして〃底辺拡大〃のお役に立ちたい……と思い、私は私なりにさっそく実行に移った。ごく手近なところから始めようと思い立ち、どこからともなく入手した一個のボール（もちろんハンドボール）。まず「底辺拡大はわが家から」とばかり、休みの日には娘（中学一年）とセガレ（小学校三年）を住宅公団のグラウンドに引っ張り出してボール遊び。キャッチング、スローイングなんてめんどうなことはいわず、ボールと遊ぶことに重点を置いた。娘もセガレも「バレーボールより小さいので投げやすい。ただ皮が堅いので手が痛い」という。「そんなことはガマンしろ」とどなりつける。私自身、ハンドボールなんてやったことはないが、〃門前の子僧、習わぬ経読む〃とかで、子供相手の程度ならできる。親子3人でボール遊びをやっていると、必ず子供の同級生、あるいは近所の幼児がもの珍しそうに集まってきて見学する。

〃ハンドボールで遊べ〃

「みんな仲間にはいれ。そしてこのハンドボールで遊べ」と号令をかける。子供たちは一斉に歓声をあげて飛び回る。〃ハンドボールってなあに──〃─子供は正直である。私に質問を浴びせるのも当然のこと。第一、初めて聞くスポーツの名前。野球、バレーボール、バスケットボールを知っている子供ばかりだ。絶好のチャンス──ここでハンドボールというものをPRする。すると小学生の中から「学校でポートボールをやっている。よく似ているネ」とすぐなじんでしまう。わが家の娘もセガレも、小学校でポートボールをやっていたので、キャッチング、スローイングはうまい。こうやってボール遊びをやっているうちにボールに親しみがでてくる。「バレーボールは大きいので取れやすいが、投げにくいよ。でもこのボールは小さいから、ボールが遠くまで飛んでいく」「ボールがいちばん遠くまでいく競争をしようよ」「ボールを木にぶっつける練習をしようよ」「2組に分かれてやろうよ」──子供なんて勝手なことをいう。でもここが肝心。ひと通りのことをやってから、ハンドボールの遊び方を教えていく。私はこのボール遊びを始めてからもう3年になる。（幸）

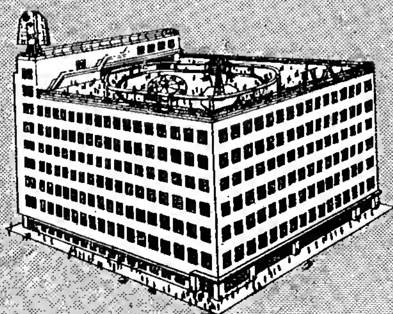
書評 ハンドボール教本

久しぶりにハンドボールの技術指導書が発刊された。7人制の技術書・入門書としては「**7人制ハンドボール入門**」（高嶋冽氏著・ベースボールマガジン社）、「**コーチ学・ハンドボール編**」（宮本西嗣氏著・逍遥書院）、「**ハンドボール（改訂版）**」（的場益雄氏著・旺文社）などがあるが、今度の新書はA5判、横書198ページ。みごとな出来ばえである。

著者の宇津野年一氏はいまさら説明するまでもなく、桜台高の基礎を築き、中京商に栄光の道を歩ませ、田村紡を全日本NO・1の座に導いた人である。私は、宇津野氏をためらうことなく「日本一のコーチ」と呼ぶ。宇津野氏は〃おれについてこい〃式のスパルタな指導をとるように伝えられているが、この本を読むとわかるように、明確、多彩なデーターを集めて、むしろ〃科学的〃な指導者といえる。

すでに昭和33年に「写真図説ハンドボール」（趙謡書院）を発刊して多くの支持を得ているが、今度の書は、以前にまさるとも劣らぬ内容。むしろ密度が一層濃くなり、豊富で鮮明な写真と図説も大きな特色である。理論的には「ワン・パス攻法」（応用編Ⅱ）に宇津野氏の持論の一端がうかがえ、「パスの安全地帯」（応用編Ⅰ）はすぐれた説得力を伴って、あざやかな展開で語られている。ディフェンス強化が叫ばれているおり「ゾーンディフェンス」についての解説は指導者にとってもその示唆するところ大きなものがあろう。また、あらゆるプレーの分析で基礎技術、基礎体力の充実と必要性を説かれているが、これこそ桜台高─中京商─田村紡の〃強さ〃の秘密であり、全編にその理念が貫かれている。これは宇津野氏にとっても、この書が〃一つの完成〃を意味するものではなかろうか。【杉山茂】

八代支店

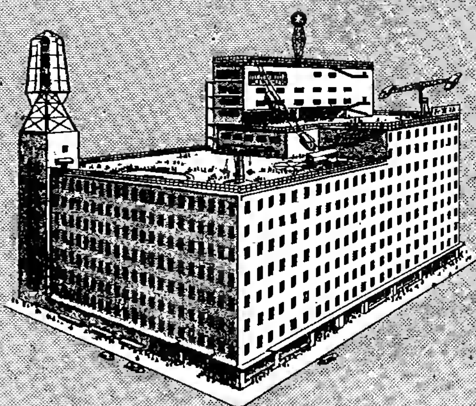


ご家庭に
幸せをはこぶ
バラの包装紙

おくりものに

大洋の商品券

熊本八代両店共通



熊本本店



熊本市下通町1丁目3－10

大洋

TEL〈大代表〉2－1111

東京都協会だより

◎常任理事会議事録

▽とき　4月11日午後6時
▽ところ　大崎電気工業株式会社
▽出席者　渡辺和美、数原洋二、外山准二、古賀健一郎、宮田豊太郎、安藤純光、松田利秋、岡前義春、今野邦彦、中野偉夫

1、日本協会主催の全国理事長会議に代理出席した安藤純光氏から報告。「一般の個人登録金が200円から100円に値下げした。このため各都道府県協会はチームを10％ふやすようにお願いしたい。実業団チームがふえたため、クラブチームの解体が目立ってきた。これを救う道はないだろうか。日本協会は日程の関係で、これ以上全国大会を開くことはできない。できるだけブロック大会を開いて試合を消化してほしい。実業団連盟から日本リーグ開催の公文書が届いたが、これに出場するチームが全日本選抜選手権大会に出場しないそうだが、これは大いに考えなければならない」。＝以上は日本協会の報告

2、41年予算編成について外山理事長から「現在作成中なので次回まで待ってほしい」と報告があり、これを了承した。

3、東京都協会主催の審判講習会は早急に開くよう安藤氏が中心となって準備を進める。

4、東京都対神奈川県対抗戦は、ことしの秋から実施することを決め、近く外山理事長が神奈川県協会の若崎理事長に会って具体的に話を進める。

5、松田利秋氏から、東京都体育協会評議員会の報告があった。このなかで国体東京都予選に中学生を特別参加させて、底辺の拡充をはかる件が注目された。大会名は「国体東京大会」とする。

6、その他

A、外国チームを日本に呼ぶことは結構だが、その理由がどこにあるのかわからない。

もし招待するなら、日本協会はこれに要する予算を「協会予算」に組入れるべきだ。（つまり各都道府県協会、各チームにオンブせずに独自の予算を持つこと）ギャラを当てにして日本協会は協会の金を全然使わないのはおかしい。通り抜け勘定という予算には納得できない。

B、常任理事会の席上、渡辺会長から「東京都協会―日本協会」との間の連絡事項について報告。これを議題に討論を重ねた結果、東京都協会と日本協会とはもっと密接な連絡を保ち、重要案件については円滑に解決していくことが望ましいという結論に達した。今年12月の全日本選抜選手権大会についても、日本協会との話し合いのうえ、開催できるように意見を調整した。

有意義な補助金

山岡中体連理事長の話

東京都ハンドボール協会は毎年、東京都高体連、東京都中体連各ハンドボール部に補助金を出しているが、中体連の山岡二郎理事長（前東京都協会副理事長）は「東京都ハンドボール協会からの補助金は有意義に使われている」と次のように話していた。

中体連ハンドボール部は組織的にも弱いし、財政的な裏付けもなかった。そのため中体連の大会や構習会を開くと、すべて先生がたの個人負担になっていた。これはアマスポーツとしては当然のことだが、いままで先生がたにたいしては気の毒に思っていた。幸い東京都ハンドボール協会が補助金を出してくれたので、中体連のハンドボール関係者は非常に喜んでいる。この補助金を基にして年間スケジュールを完全にやりとげている。底辺拡充のためにまことに有意義であり、東京都協会に心から感謝している。

東京都ハンドボール協会が中体連ハンドボール部に補助金を出しているというので、ハンドボール部を除く他の部会が「東京都ハンドボール協会はすばらしい団体だ」とほめているくらい。そしてハンドボールをうらやましがっている。これからも中体連育成のために力を貸してほしい。

× ×

立大、6度目の優勝

◇関東学生春季リーグ（4月29日―5月15日・駒沢）

「一部順位」①立大7勝②芝浦工大6勝1敗③日体大4勝3敗④教大3勝4敗⑤中大3勝4敗⑥明大3勝4敗⑦慶大2勝5敗⑧茨城大7敗

「二部順位」①早大②法大③東大、④順天堂大⑤武蔵工大、⑥防衛大、日大

「三部順位」①国士館大②明星大③千葉工大④東京学芸大⑤関東学院大⑥上智大⑦東京理大

「女子順位」①日体大②東京女体大③日本女体大

（注）一、二部、二、三部入れ替え戦は6月28日。

＝　＝

（地方だより）

中京大、13シーズン連続優勝

東海学生春季　2部は愛大、女子は中京女

東海学生春季リーグ戦は4月29日から5月7日まで名古屋工大と中京大の両球場で行なわれた。一部は中京大が一方的な試合で13シーズン連続14回目の優勝を飾り、二部は愛知大が攻守にまとまりをみせて初優勝、入れ替え戦にも勝って宿願の一部入りを果たした。

女子は昨秋と同様に中京女大と中京大の争いとなったが、得点率で上回る中京女大の初優勝に決まった。

▽男子の部

岐阜大 22（13－11、9－8）19 三重大

中京大 38（17－8、21－5）13 名大

愛知教育大 31（16－9、15－9）18 南山大

中京大 39（21－5、18－4）9 岐阜大

愛知教育大 28（12－9、16－6）15 三重大

名大 26（16－7、10－4）11 南山大

岐阜大 17（8－8、9－6）14 愛知教育大

名大 24（11－7、13－3）10 三重大

中京大 44（26－1、18－4）5 南山大

名大 29（18－8、11－5）13 岐阜大

南山大 21（9－8、12－11）19 三重大

中京大 27（9－11、18－4）15 愛知教育大

岐阜大 24（13－10、12－13）23 南山大

中京大 40（23－4、17－5）9 三重大

名大 23（12－10、11－8）18 愛知教育大

【順位】①中京大5戦全勝②名大4勝1敗③岐阜大3勝2敗④愛知教育大2勝3敗⑤南山大1勝4敗⑥三重大5戦5敗

▽同2部

愛知大 31－12 中部工大

名工大 32－13 三重県立大

静岡大 20－10 滋賀大

愛知大 18－14 名工大

中部工大 17－14 滋賀大

静岡大 39－11 三重県立大

愛知大 20－13 三重県立大

名工大 不戦勝 滋賀大

静岡大 16－9 中部工大

静岡大 19－7 名工大

愛知大 26－12 滋賀大

中部工大 21－17 三重県立大

中部工大 15－13 名工大

滋賀大 19－13 三重県立大

愛知大 18－8 静岡大

【順位】①愛知大5戦全勝（初優勝）②静岡大4勝1敗③中部工大3勝2敗④名工大⑤滋賀大⑥県立三重大

▽一・二部入れ替え戦

愛知大（二部）19（10－10、9－7）17 三重大（一部）

▽女子

中京大 17（8－0、9－1）1 松阪女短大

中京女大 21（13－0、8－1）1 松阪女短大

中京女大 7（5－3、2－4）7 中京大

【順位】①中京女大1勝1分け（得点率0・778）②中京大1勝1分け（0・750）③松阪女短大2敗

三菱重工ついに敗れる

▼愛知県実業団春季リーグ戦（4月20～27日・名古屋）

▽一部

日本碍子 18－17 大同製鋼

東海製鉄 17（分）17 三菱重工

中部電力 22－11 日本碍子

大同製鋼 17－16 三菱重工

中部電力 18（分）18 三菱重工

東海製鉄 33－17 大同製鋼

東海製鉄 23－16 中部電力

三菱重工 32－14 日本碍子

日本碍子 17－16 東海製鉄

大同製鋼 19－16 中部電力

【順位】①東海製鉄2勝1敗1分＝三菱の6連勝をはばんで初優勝②三菱重工1勝1敗2分け（得点率0・557）③大同製鋼2勝2敗（0・458）④日本碍子2勝2敗（0・408）⑤中部電力1勝2敗1分

▽二部

タヨシ産業 27－11 昭和染工

ブラザー工業 16－11 昭和染工

タヨシ産業 27－17 東レ愛知

東レ愛知 21－8 ブラザー工業

東レ愛知 24－11 昭和染工

タヨシ産業 20－6 ブラザー工業

【順位】①タヨシ産業3戦全勝③東洋レーヨン愛知2勝1敗③ブラザー工業1勝2敗④昭和染工3敗

▽一・二部入れ替え戦

中部電力（一部）20－16 タヨシ産業（二部）

中京女子大が健闘

▼第3回愛知県女子社会人・学生リーグ（4月22日～27日・名古屋）

中京女大 13－3 愛知実業団選抜

中京女大 9－8 中京大

愛知紡 15－2 中京大

中京大 19－5 愛知実業団選抜

愛知紡 9－2 中京女大

愛知紡 29－4 愛知実業団選抜

【順位】①愛知紡3戦全勝＝3連勝②中京女大2勝1敗③中京大1勝2敗④愛知実業団選抜3敗

編集後記

○…全国理事長会議で、体育指導要領の復活を文部省に要請したことを明らかにした。これは底辺拡大のためには絶対必要なこと。よろしく願います。

○…1972月のオリンピックが、ハンドボール発祥地〝西ドイツ〟のミュンヘンと決まった。近来にない朗報である。オリンピックまで6年。でもすぐやってくる。待ち遠しい。

○…フランス政府が中国を承認したことから、両国の間には政治、経済、文化の面での交流が多い。フランスのステラ・スポーツが来年あたり中国へ遠征するとか。いまその募金運動をやっているらしい。どこでも台所は苦しい。

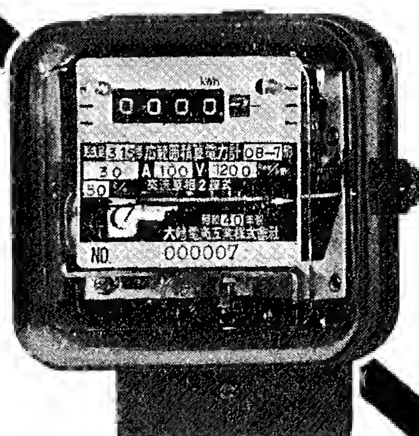
○…次号から「学園ニュース」を写真付きで連載する。よろしく。（ふぐ）

Osaki

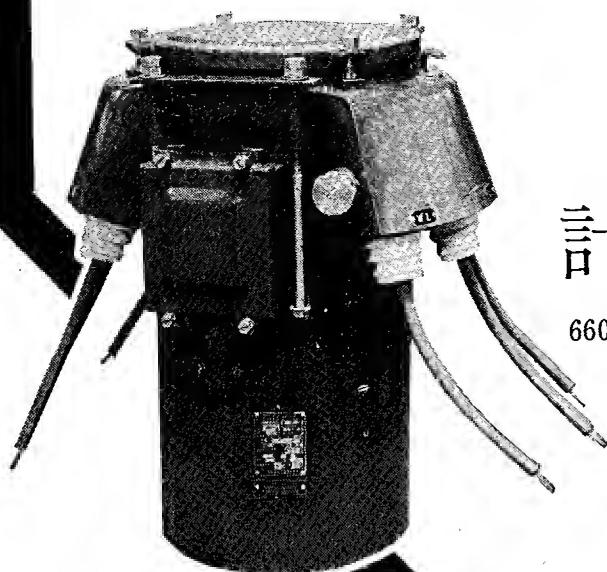
最高の確度と信頼度を持つ

積算電力計

（単相用　　OB－7）
（3相用　　OW－7）



OB—7型広範囲単相積算電力計



計器用変成器

6600Ｖ用重子型PCT　PDN形

主要製品

積算電力計・電流制限器
計器用変成器・電圧調整器
配電盤・分電盤・制御盤



大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場　東京都品川区五反田1の263　電話東京(443) 7171代表
蒲田工場　東京都大田区原町10　電話東京(732) 6511代表
埼玉工場　埼玉県入間郡三芳村大字藤久保　電話 0492 －61－ 1205

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第三十三号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
昭和四十一年五月二十五日印刷　昭和四十一年六月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話・大代表(467)三一一一
振替　東京五八三四八番
編集兼発行人　高嶋冽
定価　百五十円